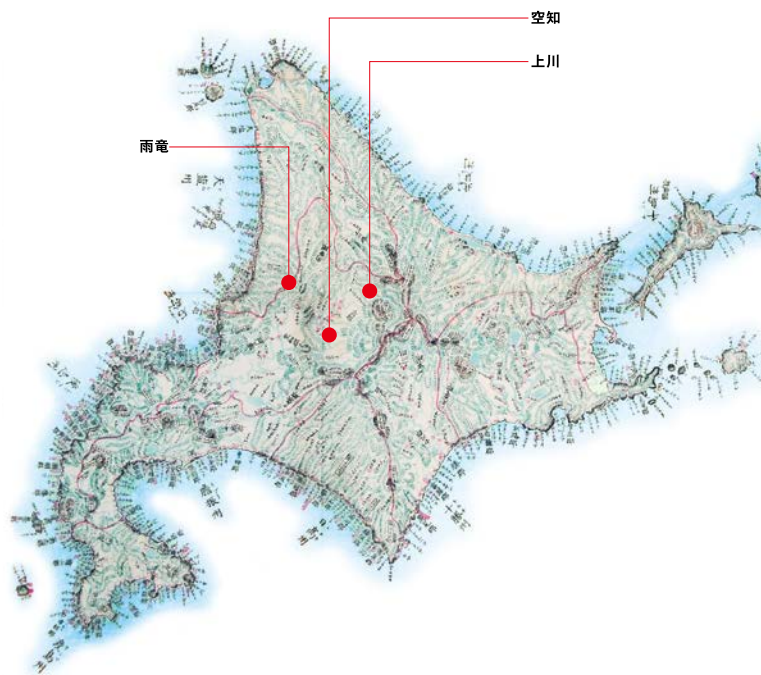


中級

アイヌ語

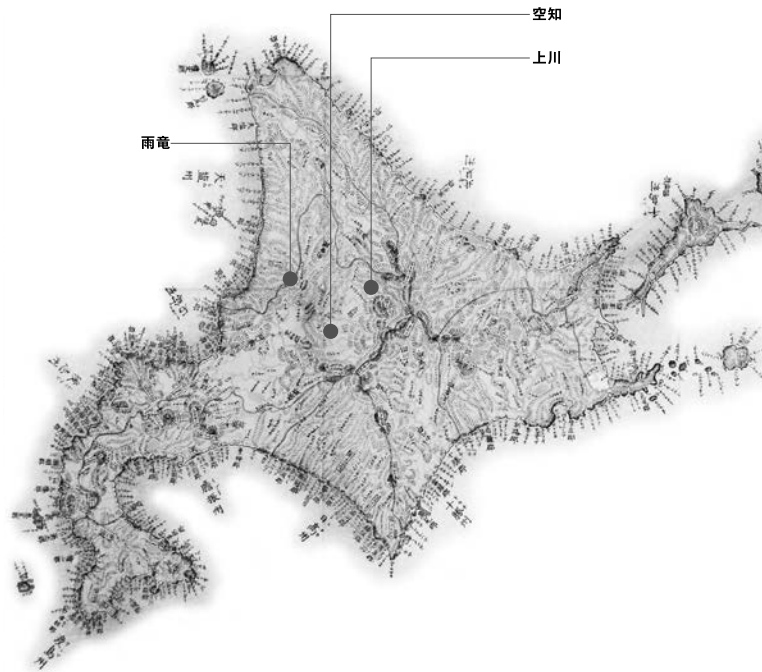
石狩川



中級

アイヌ語

石狩川



このテキストについて

当公益財団では、2010年度にアイヌ語千歳方言、美幌方言、幌別方言の教科書を作成しました。2011年度は、前年度に作成された教科書を踏襲しつつ改良を加え、静内方言、釧路・白糠方言、十勝方言の教科書を新たに作成しました。今年度は更に、石狩川方言、沙流方言、カラフト方言の教科書を作成しました。

編集方針

このテキストは、アイヌ語の初歩を学んだ人が、文法的に少し踏み込んだ内容を学ぶための教科書として作成しました。ただし、この本から学習を始めたとしても問題の無いように、なるべく平易な説明をこころがけました。

文法の学習に加え、伝統的な言葉あそびや、よく知られた童謡のアイヌ語訳を掲載しています。副教材としてカルタも添え、さまざまな角度から、楽しみながら言葉を身につけられるようにしています。

アイヌ語にはさまざまな方言があり、生活習慣も地域によって多少違います。そうした他地域の言葉・文化に関心を持ち、自分の地域についてもよく知るきっかけとなるよう、必要に応じて他方言についても解説しています。

Kampisos otta an=nuye p

例文と単語について

Tan kampsios otta an=nuye p anakne isikarunkur utar ye p or wa usa nuye p or wa usa an=uekarire p ne wa hunne an kor an=kar pe ka an.

この例文と単語は、石狩アイヌたちの各種資料に基づいて作られています。

A=ye hawe

音声について

Aynu itak ani a=ye hawe anakne sisam itak ani a=ye hawe ponno sinnay an kusu net otta aynupuri cikorataynupikir kor ita otta pirka an=kar pe an kusu nu wa un=kore yan.

アイヌ語の発音は日本語と少し違うところがあるので、当アイヌ文化財団のホームページにお手本がありますから聞いてください。

この本を通じてアイヌ語に関心を持たれた方、さらに学習を進めたい方は、これまでに出版されたより専門的な解説書や視聴覚教材を参照されることをおすすめします。

この本を編集する過程で多くの方にご指導を頂きました。記してお礼申し上げます。

【例文・単語】

太田満（石狩川方言）、大野徹人（沙流方言）、北原次郎太（カラフト方言）
高橋靖似（執筆協力）

【文法解説】

太田満（石狩川方言）、大野徹人（沙流方言）、北原次郎太（カラフト方言）
高橋靖以（執筆協力）

【言葉遊び・歌】

北原次郎太

【音声収録（五十音順）】

太田奈々、加納ルミ子、川上さやか、川村久恵、杉村フサ、竹内隼人、
豊川容子、中井貴規、八谷麻衣、山道ヒビキ、山道陽輪、山本りえ

【イラスト】

小笠原小夜、椎名庵

凡 例

- ・本書のアイヌ語の表記は、主に『アコロイタッ』（北海道ウタリ協会 1994）の表記法に基づくものです。ただし、一部異なる点があります。詳しくは「音節表」を参照してください。
- ・例文は全てカタカナ・ローマ字・逐語訳の併記としました。解説中の例には必要に応じてローマ字を記載し、他はカタカナのみとしました。
- ・カタカナ表記は実際の発音をわかりやすく示すことを意図したものです。一方、ローマ字表記は、辞書検索がしやすいように、個々の語を境界ごとに区切って示しました。
- ・アクセントを説明する際、アクセント位置を■で示しました。
- ・ローマ字表記において、人称接辞の境界を＝で示しました。また、音節の切れ目を'（アポストロフィー）で示す場合があります。
- ・ローマ字表記において、日本語の単語は大文字を用いて表記しました。
- ・例文において、別の文や節に現れる主語、目的語などを（ ）を用いて示す場合があります。
- ・例文において、注釈が必要な場合には脚注で示しました。
- ・「単語を覚えよう」に掲載した単語のうち、他方言の資料から掲載した場合にはその典拠を脚注で示しました。

中級アイヌ語—石狩川— 目次

序文	2
凡例	5
音節表	8
① アイヌ語の発音と表記 1	10
② アイヌ語の発音と表記 2	12
③ 音の交替とアクセント	14
④ 「～が…する」「～は～である」平叙文	16
⑤ 「はい」「いいえ」で答える疑問文	18
⑥ 疑問詞を用いた表現 1	20
⑦ 疑問詞を用いた表現 2	22
⑧ 「…しない」否定文	24
単語を覚えよう 1～様子を表す言葉 1～	26
さまざまなイポロセ 1	27
⑨ 「…しなさい」命令文 1	28
⑩ 「…しなさい」命令文 2	30
⑪ 「…するな」禁止文	32
⑫ 「私が」「お前が」1人称・2人称単数主格	34
⑬ 「私たちが」「お前たちが」1人称・2人称複数主格	36
⑭ 「私たちが」包括的 1人称複数主格	38
⑮ 「私を」「お前を」目的格人称	40
⑯ 「私がお前を」「お前が私を」人称の組み合わせ	42
単語を覚えよう 2～様子を表す言葉 2～	44
さまざまなイポロセ 2	45
⑰ 尊敬の表現と不定人称	46
⑱ 「私」「お前」人称代名詞	48
⑲ 動詞の単数・複数 1	50
⑳ 動詞の単数・複数 2	52
㉑ 動詞の単数・複数 3	54
㉒ 自動詞・他動詞・複他動詞	56
㉓ 「たくさん」「少し」副詞	58

24	位置関係の表現 1	60
	単語を覚えよう 3 ～動作を表す言葉 1～	62
	さまざまなイポロセ 3	63
25	位置関係の表現 2	64
26	場所の表現	66
27	所有の表現 1	68
28	所有の表現 2	70
29	親族関係の表現	72
30	形式名詞	74
31	連体修飾表現	76
32	「この」「その」「あの」連体詞	78
	単語を覚えよう 4 ～動作を表す言葉 2～	80
	さまざまなイポロセ 4	81
33	「～へ」「～から」格助詞	82
34	「～も」「～だけ」副助詞	84
35	「…した」「これから…する」助動詞	86
36	「～して」「～しながら」接続助詞 1	88
37	「～なので」「…すると」接続助詞 2	90
38	「…するように」接続助詞 3	92
39	接続助詞と動詞を組み合わせた表現 1	94
40	接続助詞と動詞を組み合わせた表現 2	96
	単語を覚えよう 5 ～程度を表す言葉～	98
	さまざまなイポロセ 5	99
41	「～だよ」「～ですか」終助詞	100
42	形式名詞による文末表現	102
43	長文引用の表現	104
44	「…と」引用の表現	106

アイヌ語(北海道方言)の音節(カタカナ表記)

【母音】

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

【子音+母音】

カ	キシ	ク	ケ	コソ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ		ト (トウ)	テ	ト
チャ	チ	チュ (ツ)	チエ	チヨ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	イ	ユ	イエ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ		ウ	ウエ	ウオ

【母音+子音】

アク	イク	ウク	エク	オク
アシ (アス)	イシ (イス)	ウシ (ウス)	エシ (エス)	オシ (オス)
アツ	イツ	ウツ	エツ	オツ
アン	イン	ウン	エン	オン
アブ	イブ	ウブ	エブ	オブ
アム	イム	ウム	エム	オム
アイ		ウイ	エイ	オイ
アラ (アル)	イリ (イル)	ウル	エレ (エル)	オロ (オル)
アウ			エウ	オウ

【子音(例としてカ行の音)+母音+子音】

カク	キク	クク	ケク	コク
カシ (カス)	キシ (キス)	クシ (クス)	ケシ (ケス)	コシ (コス)
カツ	キツ	クツ	ケツ	コツ
カン	キン	クン	ケン	コン
カブ	キブ	クブ	ケブ	コブ
カム	キム	クム	ケム	コム
カイ		クイ	ケイ	コイ
カラ (カル)	キリ (キル)	クル	ケレ (ケル)	コロ (コル)
カウ	キウ		ケウ	コウ

* () で示した音節は、単語によって固定されていたり、実際の発音を聞くと、同じ単語でも二つの発音が聞かれる音節です。

アイヌ語(北海道方言)の音節(ローマ字表記)

【母音】

a	i	u	e	o
---	---	---	---	---

【子音+母音】

ka	ki	ku	ke	ko
sa	si	su	se	so
ta		tu	te	to
ca	ci	cu	ce	co
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	hu	he	ho
pa	pi	pu	pe	po
ma	mi	mu	me	mo
ya	yi	yu	ye	yo
ra	ri	ru	re	ro
wa		wu	we	wo

【母音+子音】

ak	ik	uk	ek	ok
as	is	us	es	os
at	it	ut	et	ot
an	in	un	en	on
ap	ip	up	ep	op
am	im	um	em	om
ay		uy	ey	oy
ar	ir	ur	er	or
aw	iw		ew	ow

【子音(例としてK)+母音+子音】

kak	kik	kuk	kek	kok
kas	kis	kus	kes	kos
kat	kit	kut	ket	kot
kan	kin	kun	ken	kon
kap	kip	kup	kep	kop
kam	kim	kum	kem	kom
kay		kuy	key	koy
kar	kir	kur	ker	kor
kaw	kiw		kew	kow

ステップ1 アイヌ語の発音と表記1

アイヌ語の音

アイヌ語の音は5つの母音(a, i, u, e, o)と11の子音(c, h, k, m, n, p, r, s, t, w, y)の組み合わせでできています。これらの音を表記する場合、カタカナまたはローマ字が用いられます。

音節（音の組み合わせ）

音の組み合わせのパターンには、次の4つがあります。

- | | |
|-----------|---------------|
| ①母音 | ア a 「～が座る」 |
| ②子音＋母音 | マ ma 「～が泳ぐ」 |
| ③母音＋子音 | エク ek 「～が来る」 |
| ④子音＋母音＋子音 | チク cik 「～が滴る」 |

このような音の組み合わせの単位を「音節」と呼びます。①②のように母音で終わるものを「開音節」、③④のように子音で終わるものを「閉音節」と呼びます。

発音と表記のポイント

開音節について、発音と表記のポイントを説明します。

- (1)「母音」は「ア a, イ i, ウ u, エ e, オ o」で表記します。母音の発音は、日本語とほぼ同じですが、「ウ」は日本語よりもやや口の奥で発音されます。そのため、聞き取りが難しくなることがあります。また、地域や個人によっても多少発音が異なります。
- (2)「子音＋母音」は日本語の力行以降のカタカナと同じように書き表します。ただし、力行とガ行、タ行とダ行、パ行とパーの区別（無声音と有声音の区別）はアイヌ語にはありません。また、サ行とシャ行の区別もありません（例えば、**スサム susam** 「シシャモ」を「シュシャム」と発音しても、言葉の意味は変わりません）。
- (3)タ行は「タ ta, トゥ tu, テ te, ト to」です。「ティ ti」の音はアイヌ語では用いられません。
- (4)チャ行は「チャ ca, チ ci, チュ cu, チェ ce, チョ co」と表記されます。
- (5)ヤ行は「ヤ ya, イ yi, ユ yu, イェ ye, ヨ yo」です。イェは、「イ」と「ェ」をつなげて発音します。なお、「イ yi」は単語の先頭には現れません。yi は y で終わる形と i で始まる形が、単語の中で続いた場合にあらわれます。

- (6)ワ行は「ワ wa, ウ wu, ウェ we, ウォ wo」です。「ウェ」は「ウェブ」の「ウェ」のように、「ウ」と「ェ」をつなげて発音します。「ウォ」は「ウ」と「ォ」をつなげて発音します。yi は y で終わる形と i で始まる形が、単語の中で続いた場合にあられます。なお、「ウ wu」は単語の先頭には現れません。wu は w で終わる形と u で始まる形が、単語の中で続いた場合に現れます。

ステップ2 アイヌ語の発音と表記2

音節末の子音の表記

閉音節について、表記のポイントを説明します。

(1)閉音節の末尾には、**k, m, n, p, r, s, t, w, y**が現れます。**c**は閉音節の末尾には現れません。**h**が閉音節の末尾に現れるのは、主にサハリンの方言だけです。

(2)カタカナでは、閉音節の末尾の音を小文字で表記します。閉音節の末尾の**k, m, p, s, t**は小文字の「**ク、ム、プ、シ、ッ**」で表記します。

サク sak 「～が～を欠く」 モム mom 「～が流れる」 フナ hup 「～が腫れる」
チシ cis 「～が泣く」 サッ sat 「～が乾く」

(3)mの後に**p**が続くときは「**ン**」で表記します。

ドゥンプ tumpu 「部屋」 サンペ sampe 「心臓」

(4)閉音節の末尾の**r**は、前の母音と対応するラ行の小文字で表記します。**r**の音は、軽く舌尖ではじくような発音です。

カラ kar 「～が～を作る」 ピリ pir 「傷」 クル kur 「人、影」 ケレ ker 「履物」
コロ kor 「～が～を持つ」

(5)**n, w, y**は子音ですが、カタカナは大文字のまま表記します。

ラン ran 「～が下りる」 マウ maw 「風」 スイ suy 「穴」

なお、この方法では、「イ」に**y**と**i**、「ウ」に**w**と**u**という二つの音が割り当てられることとなります。これを避けるために、**w**や**y**にあたる部分を小文字で表記する方法もあります。

マウ maw 「風」 スイ suy 「穴」

(6)子音の連続**-kk-, -tk-, -pp-, -ss-, -tp-, -tt-**は「**ッ**」で表記します。カタカナでは「**ッ**」ですが、ローマ字の表記を見ると全て違う音であることがわかります。

ワッカ wakka 「水」 ウッカ utka 「浅瀬」 チカッポ cikappo 「小鳥」
ミッポ mitpo 「孫」 エカッタラ ekattar 「子供達」

なお、音の違いをより厳密に表記するという立場もあり、それに従うと、上記の単語はこのように表記されます。

ワッカ wakka 「水」 ウッカ utka 「浅瀬」 チカッポ cikappo 「小鳥」
ミッポ mitpo 「孫」 エカッタラ ekattar 「子供達」

ステップ3 音の交替とアクセント

音の交替

アイヌ語では、単語の最後の音と、次の単語の最初の音がつながった時に、音が交替することがあります。

モコ□ mokor 「～が眠る」 + ルスイ rusuy 「～したい」
→ モコ ン ルスイ mokor rusuy 「～が眠りたい」

ウサラ usar 「下座」 + タ ta 「～に」
→ ウサ ッ タ usar ta 「下座に」

ナンコ□ nankor 「～だろう」 + ナ na 「～だよ」
→ ナンコ ン ナ nankor na 「～だろうよ」

モム mom 「～が流れる」 + ワ wa 「～して」
→ モム マ mom wa 「～が流れて」

このような音の交替には、方言による差がみられます。ひとつずつ事例を覚えていきましょう。

このテキストでは、音が交替するときは、交替する前のかたち（元の単語の形）をローマ字で表し、交替した後のかたち（変化した形）をカタカナで表していません。

音の連結

閉音節の単語（子音で終わる単語）の後に、母音で始まる単語がくると、二つの単語が続けて発音されることがあります。

アサンカラ Asankar 「旭川」 エネ ene 「～へ」
→ アサンカ レ ネ Asankar ene 「川のところへ」

サプ sap 「～が下る」 アン = an 「私たちが」 アワ awa 「…すると」
→ サパ ナ ワ sap=an awa 「私たちが下ると」

このテキストでは、音が続けて発音される場合も、交替する前のかたち（元の単語の形）をローマ字で表し、交替した後のかたち（変化した形）をカタカナで表しています。

アクセント

アイヌ語のアクセントには、次の2つの規則があります。

- (1)最初の音節が開音節のときは、2番目の音節が高く発音されます（ただし、一部例外があります）。

パケ pake 「頭」 ノヤ noya 「ヨモギ」

- (2)最初の音節が閉音節のときは、最初の音節が高く発音されます。

アイヌ aynu 「人間」 パシクル paskur 「カラス」 スンク sunku 「エゾマツ」

アクセントの規則には例外があります。以下の単語は、最初の音節が開音節で、アクセントが最初の音節にあるものです。このような単語は、個々にアクセントを覚える必要があります。

エカシ ekasi 「祖父」 フチ huci 「祖母」
レラ rera 「風」 フラ hura 「匂い」 ウナ una 「灰」

ステップ4 「～が…する」「～は～である」平叙文

(例文)

1. ソンコ エク。

Sonko ek.

知らせ 来る

「手紙が来る」

2. イセポ テレケ カネ ホユプ。

Isepo terke kane hoyupu.

ウサギ 跳ねる て 走る

「ウサギが跳ねながら走る」

3. トアンタ アン クル アナク ベコ レシカ カナン。

Toanta an kur anak peko reska kane an.

あそこに いる 人々 は 牛 育てる て いる

「あそこにいる人は牛を育てている」

4. タン イタンキ アナクネ ピッチェ。

Tan itanki anakne pitce .

この 御椀 は 剥がれる

「この御椀は漆が剥げている」

「～が…する」「～は～である」の言い方

(初級ステップ6参照)

「～が…する」「～が～である」のようなタイプの文を平叙文と呼びます。平叙文には、主に次のようなタイプがあります。

主語（名詞）＋自動詞

主語（名詞）＋目的語（名詞）＋他動詞

主語（名詞）＋補語（名詞）＋指定詞（**ネ ne**「～が～である」）

上記のように、主語や目的語などの名詞は動詞の前に置かれます。なお、アイヌ語では主語や目的語を示す「が」や「を」という言葉はつきません。また、動詞には「…する」「…した」のような現在と過去の区別はみられません。

ステップ5 「はい」「いいえ」で答える疑問文

(例文)

1. ナア ポロンノ アン？
Naa poronno an?
まだ たくさん ある
「まだたくさんあるか？」
2. ケラアン？
Keraan?
おいしい
「おいしいか？」
3. ネツカ (ネツパ) モンライケ アナー？
Nep ka monrayke an ya?
何 か 仕事 ある か
「何か仕事があるか？」
4. トノ ヘ？
Tono he?
和人の役人 か
「和人の役人（のこと）か？」

「はい」「いいえ」で答える疑問表現

(初級ステップ9、10参照)

「～か」という疑問文にはいくつかのパターンがあります。以下では「はい」「いいえ」で答える疑問文について説明します。

- (1) 平叙文の文末を高く上げて発音すると、「はい」「いいえ」で答える疑問文になります(例文1, 2)。
- (2) 動詞の後にヤ ya 「～か?」という終助詞をつけて、「はい」「いいえ」で答える疑問文をつくることもできます(例文3)。
- (3) 名詞の後にへ he 「～か」という終助詞をつけて、「はい」「いいえ」で答える疑問文がつくることもできます(例文4)。

これらの疑問に答える場合、「はい」ならばエ e、「いいえ」ならばソモ somo という言葉が用いられます。

ステップ6 疑問詞を用いた表現1

(例文)

1. ネン コロ ペ ヘ?
Nen kor pe he?
誰 持つ もの か
「誰のものか」
2. ネツカ (ネツパ) ウェンベ ソモ エエ ルウェ?
Nep ka wen pe somo e=e ruwe?
何 か 悪い もの (否定) お前が・食べる の
「何か悪いものをあなたは食べたのか」
3. ネイタ エペレ アナー?
Ney ta eper an ya?
どこ に クマ いる か
「どこにクマがいるのか」
4. シネ トータ ヘンパク スイカ クスケ。
Sine to ta hepak suy ka ku=suke.
一つの 日 に いくつの 回 も 私が・料理する
「一日に何度も私は食事をつくる」
5. ネアン チキンルウェアン?
Nean cikir ruwe an?
どちらの 足 か 私が・つくる
「(鹿皮の履物に使うのは) どちらの足か」

疑問詞を用いた表現 1

(初級ステップ26、27参照)

このステップでは、疑問名詞、疑問連体詞を用いた疑問文について説明します。これらの疑問詞は通常単独で使われることはなく、他の語句と組み合わせて用いられます。

- (1) 疑問名詞には以下の種類があります。これらの疑問名詞は動詞の前に置かれたり、終助詞を伴うことにより、様々な疑問の意味を表します。

ネン nen 「誰」 ネネ nep 「何」 ネイ ney 「どこ」

- (2) 疑問連体詞には以下の種類があります。これらの疑問連体詞は名詞の前に置かれ、様々な疑問の意味を表します。

ヘンパク hepak 「いくつの」 ネアン nean 「どちらの」

- (3) これらの疑問名詞、疑問連体詞は、対象を特定しない不定の疑問の表現にも用いられます (例文2, 4)。

ステップ7 疑問詞を用いた表現2

(例文)

1. ネイワ エク メノコ ネ ヤー?
Neywa ek menoko ne ya?
どこから 来る 女 である か
「どこから来た女だろうか?」
2. ネイネ エシパイェ ルウェアン?
Neyne es=paye ruwe an?
どこへ あなたが・行く 事実 ある
「あなたはどこへ行くのか」
3. ヘンパラ エシオシッパ (ホシッパ) ヤー?
Hempar es=hosippa ya?
いつ あなたが・戻る か
「いつあなたは帰ってきますか?」
4. アイヌイタカニ ネーコン アイェー?
Aynuytak ani nekon a=ye?
アイヌ語 で どう 人が・言う
「アイヌ語でそれをどう言いますか?」

疑問詞を用いた表現 2

(初級ステップ26、27参照)

このステップでは、疑問副詞を用いた疑問文について説明します。疑問副詞は通常単独で使われることはなく、他の語句と組み合わせて用いられます。

- (1) 疑問副詞には以下の種類があります。これらの疑問副詞は動詞の前に置かれ、様々な疑問の意味を表します。

ネイワ neywa 「どこから」 ネイネ neyne 「どこへ」 ヘンパラ hembra 「いつ」
ネコン nekon 「どう」

- (2) これらの疑問副詞は、対象を特定しない不定の疑問の表現にも用いられます(例文4)。

ステップ8 「…しない」 否定文

(例文)

1. ソモ クモコンノ クカンピヌイエ クスネ ナ。
Somo ku=mokor no ku=kampinuye kusune na.
(否定) 私が・眠る に 私が・勉強する つもり よ
「私は眠らずに勉強するよ」
2. ソンノ クニソマフ ワ クイペ カ ソモ キ。
Sonno ku=nisomap wa ku=ipe ka somo ki.
とても 私が・心配する て 私が・食事する も (否定) する
「私はとても心配で食事もしない」
3. アノカイ アナクネ ネツカ(ネツパ) カミアシ アネ ルカ
Anokay anakne nep ka kamiasi an=ne ru ka
私 というもの 何 か 怪物 私が・である 事実 も
ソモ ネ。
somo ne.
(否定) である
「私は何か怪物でもないのだ」
4. シリペケレ カ ソモ キ。
Sirpeker ka somo ki.
夜が明ける も (否定) する
「夜が明けてもいない」

「…しない」の言い方

(初級ステップ7参照)

「…しない」「～ではない」などの否定の表現には**ソモ somo**という言葉が用いられます。

ソモ somoは副詞であり、動詞の前に置かれます。例文1では**クモコロ ku=mokor**「私が眠る」という動詞の前に**ソモ somo**が置かれ、「眠らない」という否定文がつくられています。

また、動詞の後ろに**カ ソモ キ ka somo ki**「…しない」というフレーズをつけて否定の意味を表すこともできます(例文4)。**カイ ka**は否定の焦点を示す副助詞ですが、この構文は「～もしない」という否定の強めになります(副助詞についてはステップ34を参照してください)。

単語を覚えよう 1～様子を表す言葉 1～

- | | | | |
|-----|------|-------|---------|
| 1. | ピリカ | pirka | 「～が良い」 |
| 2. | ウェン | wen | 「～が悪い」 |
| 3. | ポロ | poro | 「～が大きい」 |
| 4. | ポン | pon | 「～が小さい」 |
| 5. | タンネ | tanne | 「～が長い」 |
| 6. | タッネ | takne | 「～が短い」 |
| 7. | ルウェ | ruwe | 「～が太い」 |
| 8. | アネ | ane | 「～が細い」 |
| 9. | ハンケ | hanke | 「～が近い」 |
| 10. | ト°イマ | tuyma | 「～が遠い」 |

さまざまなイロセ 1

沙流・静内地方

◇富川 年賀状の文

① タアン アシリ パ ソンノ ヌペツネノ

taan asir pa sonno nupetneno

この新しい年に心から慶びながら

アコシキリパ。サクパ オッタ

a=kosikirpa. sakpa or ta

向かいます。(今年の) 夏期と

ネノカネ ピリカスクナアン クニ

nenokane pirkasuku=an kuni

同様に健やかな暮らしをなさるよう

カムイ オルン クオンカミ ナ。

kamuy orun ku=onkami na.

カムイに祈念申し上げます。

(書き手: 鍋沢元蔵さん)

※下線部分にあたる別の言い方としてアシリパアウツワ シノ ケヤイコブンテツナ
「新しい年を取り、本当に嬉しく思っています」という表現もあります。

◇東静内 年賀状の文

アシリパ オッタ ヌプルカンピ

asir pa or ta nupurkampi

新年にあたっての尊いお手紙(賀状)に

パセノポ クオンカミ ナ。

pasenopo ku=onkami na.

丁重に拝礼します。

ピリカ アシリ パアノシキル キワ

pirka asir pa an=osikuru ki wa

良い年をお迎えになり

イワンケアン ワ ピリカモンライケアン クニ

iwanke=an wa pirkamonrayke=an kuni

お達者で、良いお仕事をなさいますように

クオンカミ ナ。パセノポ イヤイライケレ。

ku=onkami na. pasenopo iyayraykere.

ご祈念申します。誠にありがとうございます。

(書き手: 佐々木太郎さん)

☆釧路アイヌ文化懇話会『アイヌ・モシリー幻のアイヌ語誌復刊』から転載しました。転載にあたって一部の表記を改変しました。ローマ字・訳は北原によります。

ステップ9 「～しなさい」 命令文1

(例文)

1. テイネ エク ワ ア。
Teyne ek wa a.
ここへ 来る て 座る
「ここへ来て座れ」
2. エタク オマン。
etak oman.
さあ 食べる
「さあ、行け」
3. ヤイエヤム アニー。
Yayeyam ani.
自愛する なさい
「身体を大事にしなさいよ」
4. アンミフ アマ ワ ホッケ アニー。
Anmip ama wa hotke ani.
服 脱ぐ て 横になる なさい
「服を脱いで横になりなさいよ」

「…しなさい」の言い方1

(初級ステップ12参照)

「…しなさい」という命令文には、いくつかのパターンがあります。

- (1) 命令の表現には、動詞をそのまま用いることができます(例文1, 2)。ただし、非常に乱暴な言い方ですので、子供とか犬に言う以外普通は使いません。また命令の表現においては、命令する相手を表す人称接辞(ステップ12参照)はつきません。例えば、**エエク e=ek**「お前が来る」という表現は、「来なさい」という命令の意味では通常用いられません。
- (2) 子供や親しい相手に念を押すように情愛を込めて行う命令の表現には、**アニ ani**「…しなさい」という終助詞が用いられます(例文3, 4)。

ステップ10 「…しなさい」 命令文2

(例文)

1. ヘンパノ ア ヤー。

Hempano a ya.

早く 座る なさい

「早く座りなさい」

2. テイネ アラキ ワ ロク ヤン。

Teyne arki wa rok yan.

ここへ 来る て 座る なさい

「(お前達) ここへ来て座りなさい」

3. サタ サパン。

Sa ta sap yan.

前 に 下る 下さい

「(あなた) 火のそばに来て下さい (どうぞこちらへ)」

4. タンベ パテッ エセ ナンコロー。

Tampe patek es=e nankor.

これ ばかり お前達が・食べる だろう

「お前達はこれだけ食べていなさい」

「…しなさい」の言い方2

(初級ステップ12参照)

このステップでは、単数、複数の相手に対する命令表現、丁寧な命令の表現について説明します。

- (1)自分より目下の単数の相手に対する普通の命令には、**ヤ ya**「…しなさい」という終助詞が用いられます。(例文1)。この時には特に単数と複数の区別がある動詞では単数形が用いられます。それに対して目上や同輩に対しての丁寧な命令は**ヤン yan**「…して下さい」という終助詞が用いられます。(例文3)この時の動詞は先の条件で複数形が用いられます。
- (2)複数の相手に対する命令には、(自)動詞の複数形に**ヤン yan**という終助詞が用いられます(例文2)。なお複数の相手に関しては目下目上で文型に違いはありません。
- (3)動詞の語尾が子音の場合(例3)のように **y** が落ちて**サナヤン sap yan** が**サパン sapan**などと発音されます。
- (4)**ナンコロ nankor**「…するだろう」という助動詞を用いると、遠まわしな命令の表現となります(例文4)。なお、**ナンコロ**を用いた命令表現では、例外的に命令する相手を表す人称接辞がつけられます。

ステップ11 「…するな」禁止文

(例文)

1. エチキ ホユプ (オユプ)。

Eciki hoyupu.

(禁止) 走る

「走るな」

2. エチキ ホユプ(オユプ) ヤー。

Eciki hoyupu ya.

(禁止) 走る なさい

「走ってはいけません」

3. エチキ ホユッパ(オユッパ) ヤーン。

Eciki hoyuppa yan.

(禁止) 走る 下さい

「走らないで下さい」

4. トノイレンカ アナッカ エチッキ ハウサク ヤン。

Tonoirenka an yakka ecikki hawsak yan.

和人の法律 ある ても (禁止) 黙る なさい

「和人が自分の法律を押し付けても黙ってはいけない」

「…するな」の言い方

(初級ステップ12参照)

「…するな」という禁止の表現には**エチキ eciki**という言葉が用いられます。

エチキ ecikiは副詞であり、動詞の前に置かれます。例文1では**ホユプ hoyupu**「～が走る」という動詞の前に**エチキ eciki**が置かれ、「走るな」という禁止の表現がつくられています。なお、命令の表現と同様に、禁止の表現においても聞き手を表す人称接辞はつけられません。また、禁止の表現でも命令と同様普通は**ヤ ya**や**ヤン yan**などの命令を表す終助詞を付け、また丁寧な表現との区別もあります。(例文4)の**エチッキ ecikki**は強調で、「絶対…するな」の意味になります。

ステップ12 「私が」「お前が」 1人称・2人称単数主格

(例文)

1. ポロンノ トノト クカラ。
Poronno tonoto ku=kar.
たくさん 酒 私が・作る
「私は酒をたくさんつくる」
2. ピリカノ クモコロ ワ クヤイモソソ。
Pirkano ku=mokor wa ku=yaymososo.
良く 私が・眠る て 私が・目覚める
「(昨晚、) 私はよく眠って目が覚めた」
3. ヌマン エイク ワ エホシピ (エオシピ)。
Numan e=iku wa e=hosipi.
昨日 お前が・酒を飲む て お前が・帰る
「昨日お前は酒を飲んで帰った」
4. シンバヤ エヌカラ ハウエ (アウエ) ?
Simpaya e=nukar hawe?
芝居 お前が・見る か
「お前舞台を見たってかい？」

「私が」「お前が」の表現

(初級ステップ14参照)

アイヌ語の動詞は、人称によって形が変化します。人称を表す言葉は動詞に付属するものであり、人称接辞と呼ばれます。人称接辞には、主語を表すもの（主格人称接辞）と目的語を表すもの（目的格人称接辞）があります。このステップでは、「私が（1人称単数主格）」「（目下の相手に）お前が（2人称単数主格）」の表現について説明します。

- (1)「私が…する」と表現する場合には、動詞の前に**ク ku**=「私が」をつけます（例文1, 2）。
- (2)「お前が…する」と表現する場合には、動詞の前に**エ e**=「お前が」をつけます（例文3, 4）。
- (3)アイヌ語では、文の中の全ての動詞に人称接辞がつきます（例文参照）。日本語の「私が（は）」「お前が（は）」という言葉とは使い方が異なりますので、注意する必要があります。
- (4)動詞の前に**ク ku**= や **エ e**= がつくと、アクセントが移動します（アクセントの規則についてはステップ3を参照してください）。

モコ□ moker 「～が眠る」 → **クモコ□ ku=moker** 「私が眠る」

ヌカラ nukar 「～が～を見る」 → **エヌカラ e=nukar** 「お前が～を見る」

ステップ13 「私たちが」「お前たちが」1人称・2人称複数主格

(例文)

1. ピリカ カム チエ ワ ピリカウレシカアシ。
 Pirka kam ci=e wa pirkaureska=as.
 良い 肉 私達が・食べる て 良い暮らしする・私達が
 「私たちは良い肉を食べて良い暮らしをした」
2. タント イホカシ クス パイエアシ ワ。
 Tanto ihok=as kusu paye=as wa.
 今日 私達が・買い物する ため 私達が・行く よ
 「今日私達は買い物に行ったのよ」
3. イランカラプテ セコロ エシイエ コロカ メノコ ソモ
 Irankarapte sekor es=ye korka menoko somo
 イランカラプテ と お前達が・言う けれど 女 (否定)
 キブ ネ ナ。
 ki p ne na.
 する 事 である な
 「イランカラプテとお前たちはいうが女は言わないもんだぞ」

「私たちが」「お前たちが」の表現

(初級ステップ15参照)

このステップでは、「私たちが(1人称複数主格)」「(目下の相手に)お前たちが(2人称複数主格)」の表現について説明します。なお、「私たちが」の表現には、聞き手を含む場合(包括的1人称複数主格)と聞き手を含まない場合(除外的1人称複数主格)の二通りの表現があります。聞き手を含む「私たちが」の表現については、ステップ14で説明します。

- (1) 聞き手を含まずに「私たちが…する」と表現する場合には、動詞に**チ ci=**「私たちが」または**アシ=as**「私たちが」をつけます。**チ ci=**は他動詞の前につく形です(例文1)。**アシ=as**は自動詞の後ろにつく形です(例文2)。
- (2) 「お前たちが…する」と表現する場合には、動詞の前に**エシ es=**「お前たちが」をつけます(例文3)。
- (3) 単数・複数の区別がある自動詞の場合、**アシ=as**や**エシ es=**は複数の形につきます(例文2)。
- (4) 他動詞の前に**チ ci=**がつくと、アクセントが移動します。

ヌカラ nukar 「～が～を見る」 → **チヌカラ ci=nukar** 「私たちが～を見る」
ホッケ hotke 「～が寝る」 → **ホッケアシ hotke=as** 「私たちが寝る」

- (5) 動詞の前に**エシ es=**がつく場合、アクセントは移動しません。

ヌカラ nukar 「～が～を見る」 → **エシヌカラ es=nukar** 「お前たちが～を見る」

ステップ14 「私たちが」 包括的 1 人称複数主格

(例文)

1. ピリカメノコ アト°サ シリ アンヌカラ (アヌカラ)。
 Pirkamenoko atusa sir an=nukar.
 美しい女 裸になっている 様子 私達が・見る
 「私たちは美しい女が裸になっているのを見た」

2. ヤ タ チホキ アイヤンケ(アヤンケ)。
 Ya ta cihoki an=yanke.
 陸 に 商品 私達が・上げる
 「私たちは積荷を陸揚げする」

3. スイ ネイワカ ト°ミ エク アナクネ
 Suy neywa ka tumi ek an yakne
 また ところから か 戦争 来る ある たら
 ウランコパシテアン クスネ ナ。
 uramkopaste=an kusune na.
 私達が・団結する つもり よ
 「またどこからか攻められても力を合わせて戦おうよ」

4. ナイ オッタ ラパン。
 Nay or ta rap=an.
 沢 ところ に 降る・私たちが
 「私たちは沢へ降りた」

聞き手を含む「私たちが」の表現

(初級ステップ16参照)

このステップでは、聞き手を含む「私たちが」の表現（包括的1人称複数主格）について説明します。

- (1) 聞き手を含めて「私たちが…する」と表現する場合には、動詞に**アン an=**「私たちが」または**アン=an**「私たちが」をつけます。**アン an=**は他動詞の前につく形です（例文1, 2）。**アン=an**は自動詞の後ろにつく形です（例文3, 4）。
- (2) 基本的な形は**アン an=**なのですが、s や y ではじまる他動詞の前では**アイ ay=**、また w ではじまる場合は**アウ aw=**と変わり、更に**ア a=**となるなど発音の早さによって音が変わります。また m、n、r、t ではじまる場合も早さや口調によって n が脱落し**ア a=**となることがあります
- (3) 単数・複数の区別がある自動詞の場合、**アン=an**は複数の形につきます（例文4）。
- (4) 他動詞の前に**アン an=**がつく場合、アクセントは移動しません。

ヌカラ nukar 「～が～を見る」 → **アンヌカラ an=nukar** 「私たちが～を見る」

ホツケ hotke 「～が寝る」 → **ホツケアン hotke=an** 「私たちが寝る」

ステップ15 「私を」「お前を」 目的格人称

(例文)

1. エネイワンケ ワ エンコレ ヤン。
 En=eiwanke wa en=kore yan.
 私を・使う て 私に・くれる なさい
 「私を雇って下さい」

2. アウタンクル ランマ エク ワ ウンカスイ。
 Awta an kur ramma ek wa un=kasuy.
 隣りに いる 人 いつも 来る て 私たちを・手伝う
 「隣りの家の人はこちらへ来て私たちを手伝ってくれる」

3. チニタ エコタ ナッカ カムイ イパカシヌ。
 Cinita ekota ne yakka kamuy i=pakasnu.
 夢 に である ても 神 私たちを・教える
 「夢へでも神が私たちを（危険な目にあわないように）教え諭す」

4. エコットット エテレ カナン ナ。
 E=kor totto e=tere kane an na.
 お前が・持つ 母 お前を・待つ ながら いる よ
 「お母さんがお前を待っているぞ」

5. シエトケネ エシンカラ エアイカフ クス ウエン ナー。
 Sietok ene es=inkar eaykap kusu wen na.
 前 へ お前達が・見る できない から 悪い ぞ
 「お前たちは先の事が見えないから駄目なんだぞ」

「私を」「あなたを」などの表現

(初級ステップ17、18、19参照)

このステップでは、「私を (1人称単数目的格)」「(目下の) お前を (2人称単数目的格)」などの表現 (目的格人称接辞) について説明します。

- (1)「私を (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**エン en**＝「私を (に)」をつけます (例文1)。
- (2)聞き手を含めずに「私たちを (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**ウン un**＝「私たちを (に)」をつけます (例文2)。
- (3)聞き手を含めて「私たちを (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**イ i**＝「私たちを (に)」をつけます (例文3)。
- (4)「お前を (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**エ e**＝「お前を (に)」をつけます (例文4)。
- (5)「お前たちを (に) …する」と表現する場合には、他動詞の前に**エシ es**＝「お前たちを (に)」をつけます (例文5)。

ステップ16 「私がお前を」「お前が私を」 人称の組み合わせ

(例文)

- タンペ エコレアン ワ。
 Tampe e=kore=an wa.
 これ お前に・与える・私が よ
 「これを私がお前にあげるよ」
- エシコヤイライケアン クス エソカイ パテッ エシイエアン ナ。
 Es=koyayrayke=an kusu esokay patek esi=ye=an na
 お前達に・感謝する・私が ので お前達 だけ お前達に・言う・私が よ
 「私はお前達に感謝するからお前達だけに教えてやるんだぞ」
- テエタ エエンコスンケ クス エコウェナン ナ。
 Teeta e=en=kosunke kusu e=kowen=an na.
 以前 お前が・私を・だます ので お前を・憎む・私が よ
 「以前お前は私をだましたからお前が憎いんだよ」
- タンペ パクノ エシエンララ (エセンララ) クニ
 Tampe pakno es=en=rara kuni
 これ まで お前達が・私を・馬鹿にする だろうと
 クラム カ ソモ キ。
 ku=ramu ka somo ki.
 私が・思う も (否定) する
 「これほどまでお前達が私を馬鹿にするとは思ってもみなかった」

「私がお前を」「お前が私を」などの表現

「私がお前を…する」「お前が私を…する」などは、主格と目的格の人称接辞を組み合わせる表現します（主格目的格人称変化と呼ばれます）。主格と目的格の組み合わせは、方言による違いが大きく、詳細が不明な地域もあります。

以下の表は石狩川方言の人称の組み合わせです。縦の列は主格の人称、横の列は目的格の人称を示しています。主格人称と目的格人称の単純な組み合わせからは予測できない不規則な形が用いられる場合がありますので、注意が必要です（*はそのような組み合わせがないことを示しています）。

目的格 \ 主格	1 人称単数	除外的 1 人称複数	包括的 1 人称複数	2 人称単数	2 人称複数	3 人称
1 人称単数	*	*	*	エ・・アン e= =an	エシ・・アン es= =an	ク・ ku=
除外的 1 人称複数	*	*	*	エ・・アシ e= =as	エシ・・アシ es= =as	チ・ ci=
包括的 1 人称複数	*	*	*	*	*	アン・ an=
2 人称単数	エ・エン・ e=en=	エ・ウン・ e=un=	*	*	*	エ・ e=
2 人称複数	エシ・エン・ es=en=	エシ・ウン・ es=un=	*	*	*	エシ・ es=
3 人称	エン・ en=	ウン・ un=	イ・ i=	エ・ e=	エシ・ es=	

単語を覚えよう2 ～様子を表す言葉2～

1.	パセ	pase	「～が重い」
2.	コシネ	kosne	「～が軽い」
3.	リ	ri	「～が高い」
4.	ラム	ram	「～が低い」
5.	イロンネ	ironne	「～が厚い」
6.	カパラ	kapar	「～が薄い」
7.	セセク	sesek	「～が熱い」
8.	ヤム	yam	「～が冷たい」
9.	ポツケ	popke	「～が暖かい」
10.	メアン	mean	「～が寒い」

さまざまなイロセ 2

塘路・釧路地方

◇塘路 山で大木があったときの祈り

シリコロ カムイ、ウエンメノコ チネヤッカイキ
sirkorkamuy, wen menoko ci=ne yakkayki
立木の神よ、不束な女ですけれど

タンパク アニ エチノミアンナ。
tanpaku ani eci=nomi=an na.
タバコによって貴方を祭りますよ。

イカシッカマワエンコレ。
ikasikkama wa en=kore.
見守ってください。

(語り手:伊藤つるさん・吉田はるさん)

☆この唱えごとを掲載するにあたり更科源蔵『コタン探訪帳』No. 10を参照しました。

◇釧路千代の浦 アイン語のよる手紙

カンピ アニ クソンコオマンテ ナ。 エコタン*タ アイヌ オプッタノ
kampi ani ku=sonkoomante na. e=kotan ta aynu oputtano
紙によって言葉を送りますよ。 あなたの村では人々みな

ウイワンケレ ワ アンナ。 チコタン* アナッネ アイヌ オプッタノ
uywankere wa an a? ci=kotan anakne aynu oputtano
互いに達者でいますか。 私の村では、人々みな

ウイワンケレ ワ オカイ エラムアン ワ イコレ。 エマチ ウサ
uywankere wa okay kusu eramuan wa i=kore. e=maci usa
互いに達者で暮らしていますから そう思って下さい。あなたの奥さんも

エポ ウサ イワンケ ワ アンナ。
e=po usa iwanke wa an a?
あなたのお子さんもお達者ですか。

(書き手:山本順吉さん)

☆釧路アイン文化懇話会『アイン・モシリー幻のアイン語誌復刊』から転載しました。転載にあたって一部の表記を改変しました。ローマ字・訳は北原によります。

※コタヌ kotanu という場合もあります。沙流方言、十勝方言などでは、このような場合常にコタヌになります。

ステップ17 尊敬の表現と不定人称

(例文)

1. ネイネ エシパイェ ルウェ アン？
 Neyne es=paye ruwe an?
 どこへ あなたが・行く 事実 ある
 「あなたはどちらへ行かれますか？」
2. クコロ ウタラパ ウタラ、 イイソネカ エサラキ ルー タパン。
 Ku=kor utarpa utar, iisoneka es=arki ru tap an
 私が持つ 権力者 達 ようこそ あなた達が・来る 事実 こう ある
 「皆さま、よくおこし下さいました」
3. オカヤン キ ワ ピリカウレシカ チキ エアシカイ ルウェ ネ
 Okay=an ki wa pirkaureska ci=ki easkay ruwe ne
 あなたがいる する て 良い暮らし 私達ができる できる 事実 である
 イコヤイライケアシ ルウェ タパン ナ。
 i=koyayrayke=as ruwe tap an na.
 あなたに感謝する 事実 これ ある よ
 「あなたがおられて私達が良い暮らしを出来ますので感謝いたしますよ」
4. アペサムタ カムイ ソモ アウェイイエカラ ペ ネ。
 Ape sam ta kamuy somo an=weyyekar pe ne.
 火 のそば で クマ (否定) 人が・悪口言う もの である
 「火のそばでクマの悪口を言うものではない」

尊敬の表現

アイヌ語では、人称接辞やある種の名詞を用いて尊敬の表現が組み立てられます。このステップでは、主に人称接辞による尊敬の表現について説明します。

- (1) 聞き手に対する尊敬を表す場合には多くの方言で、**アン an=**、**アン=an**、**イ i=** という人称接辞が用いられます。(例文3) 石狩川方言でも用いる事はありますが次の(2)の方が普通です。
- (2) 2人称の複数を表わす**エシ es=**「お前達が、お前達を」が聞き手に対する丁寧な表現を表わして多く用いられます。また(1)と同じく形の上で単数の「あなたが」、「あなたを」と複数の「あなた達が」、「あなた達を」に違いはありません。(例文1,2)
- (3) 単数と複数の区別のある動詞の場合には、複数形の動詞が用いられます。(例文1, 2, 3)

不定人称

包括的1人称複数の **an=**, **=an**, **i=** は、「一般に人が(を)、誰かが(を)」のような不特定の意味を表すことがあります(例文4, 5)。これを不定人称と呼びます。(例文4)

ステップ18 「私」「お前」人称代名詞

(例文)

1. クアニ エムシコロクル エコタ クオマン。
 Kuani emuskorkur ekota ku=oman.
 私 警察 私が・行く
 「私が警察へ行く」

2. ネイパクノ エアニ パテク エオシクヌカアン ナ。
 Neypakno eani patek e=osiknuka=an na.
 いつまでも お前 だけ お前を・愛する・私が な
 「ずっと愛してるからな」

3. チオカイ ネノ ピリカノ エシキ ヤク ピリカ。
 Ciokay neno pirvano es=iki yak pirka.
 私達 のように 良く お前達・する たら 良い
 「私達のように上手くやったらいい」

4. アノカイ アナクネ タン チセ アナシ。
 Anokay anakne tan cise an=asi.
 私達 というもの この 家 私達が・建てる
 「私達がこの家を家を建てた」

5. エソカイ カ イコロ エシコンルスイ クス エネ エシキ アワン。
 Esokay ka ikor es=kor rusuy kusu ene es=iki awan.
 お前達 も 金 お前達・持つ したい ので ああ お前達が・する だった
 「お前達も金が欲しくてああしたんだな」

6. エソカイ アナク ネーコン エシキ ルウェ アン？
 Esokay anak nekon es=iki ruwe an?
 あなた というもの どう あなた・する 事実 ある
 「あなたの方はどうお過ごしですか？」

人称代名詞

人称代名詞は日本語の「私」や「お前」にあたるものです。ただし、アイヌ語は人称接辞を用いて人称の関係を表現しますので、人称代名詞は強調など限られた場合にしか用いられません。

人称代名詞を用いると、主語や目的語を強調する表現となります（例文参照）。以下に石狩川方言の人称代名詞のリストをあげておきます。

	単数		複数
1人称	クアニ kuani	チオカイ ciokay, アノカイ anokay,	チウタリ ciutari (除外的) アヌタリ anutari (包括的)
2人称	エアニ eani アノカイ anokay (敬称)	エソカイ esokay エシオカイ (esiokay),	エシウタリ esiutari (敬称も三つ同じ)
3人称	*	*	

ステップ19 動詞の単数・複数 1

(例文)

1. トアンタ エカシ ア ワ アン。
Toanta ekasi a wa an.
あそこに お爺さん 座る て いる
「あそこにお爺さんが座っている」
2. メノコ ウタヲ ロク ワ ウボボ。
Menoko utar rok wa upopo.
女 達 座る て 歌う
「女達が座って歌った」
3. ペテトッタ ポロ ト アン。
Petetok ta poro to an.
水源 に 大きい 沼 ある
「水源に大きな沼がある」
4. ウェネベレ オカイ。
Wen eper okay.
悪い クマ いる
「悪いクマが(複数)いる」
5. ネアン チセ アパ オッタ エンチアシ。
Nean cise apa or ta enci=asi.
その 家 戸口 所 に 人が私を立たせる
「その家の戸口に私は立たせられた」
6. ウナ オシケタ キ アンロシキ ワ ウン。
Una oske ta ki an=roski wa un.
灰 中 に ヨシの稈 人が・立てる て ある
「灰にヨシを(複数)立てておく」

単数と複数で形が全く異なる動詞

(初級ステップ25参照)

アイヌ語の動詞の一部には、単数と複数の区別をもつものがあります。単数・複数の区別をもつ動詞のなかには、単数形と複数形で全く形の異なるものがあります。このようなタイプの動詞は、数は少ないのですが基本的な動詞が多く、個々に記憶する必要があります。

以下に自動詞の例をあげます。自動詞の複数形は主語が複数であることを表します(例文1, 2)。

ア a (単数) / **ロク** rok (複数) 「～が座る」

アン an (単数) / **オカイ** okay (複数) 「～がある、いる」

アシ as (単数) / **ロシキ** rosiki (複数) 「～が立つ」

エク ek (単数) / **アラキ** arki (複数) 「～が来る」

オマン oman (単数) / **パイエ** paye (複数) 「～が行く」

オマナン omanan (単数) / **パイエカイ** payekay (複数) 「～が歩き回る」

以下に他動詞の例をあげます。なお、基本的に他動詞の複数形は目的語が複数であることを表します(例文6)。

アシ asi (単数) / **ロシキ** rosiki (複数) 「～が～を立てる」

ウク uk (単数) / **ウイナ** uyna (複数) 「～が～を取る」

ステップ20 動詞の単数・複数2

(例文)

1. エカシ ポール オッケタ アフン。
Ekasi poru oske ta ahun.
お爺さん 洞窟 の中 に 入る
「お爺さんは洞窟の中に入った」
2. オッカヨ ウタラ チセ オンナイタ アフプ。
Okkayo utar cise onnay ta ahup.
男 達 家 の中 に 入る
「男達が家の中に入って来た」
3. ソイタ クアシン ワ インカラ。
Soy ta ku=asin wa inkar.
外 に 私が・出る て 見る
「私は外に出て見た」
4. チセ オッタ オカイ ウタラ オピッタ キマテク ワ アシプ。
Cise or ta okay utar opitta kimatek wa asip.
家 の中 に いる 人達 みんな あわてる て 出る
「家の中にいる人達はみんな慌てて外に出た」

ン -n で単数形、プ -p で複数形がつけられる動詞

動詞のなかには動詞の語幹の後ろにン -n をつけて単数形をつくるものがあります。そのような動詞では、語幹の後ろにプ -p をつけて複数形がつけられます。

このようなタイプの動詞は、基本的に移動の意味を表わす自動詞に限られています。以下に例をあげます。

アフン ahu-n (単数) / アフプ ahu-p (複数) 「～が入る」

ラン ra-n (単数) / ラプ ra-p (複数) 「～が下る」

サン sa-n (単数) / サプ sa-p (複数) 「～が(川下へ)下る」

リキン riki-n (単数) / リキプ riki-p (複数) 「～が上る」

ヤン ya-n (単数) / ヤプ ya-p (複数) 「～が上陸する」

アシン asin (単数) / アシプ asi-p (複数) 「～が出る」

ステップ21 動詞の単数・複数3

(例文)

1. ウタロピッタ ホユッパ、 キラ コロカ イヨッタ イオシ
 Utar opitta hoyuppa, kira korka iyotta iosi
 仲間 全員 走る 逃げる けれど 一番 後から
 「スズメが集まって何かを集めて食べた」
- ホニポロ メノコ ホユプ エク。
 honiporo menoko hoyupu, ek.
 妊娠する 女 走る 来る
 「(クマが出て) みんなは走って逃げたが一番後ろから妊婦が走って来た」
2. イコロ エエルサアン コロカ ナー エホシピレ カ ソモ キ。
 Ikor e=erusa=an korka na e=hosipire ka somo ki.
 金 お前に・貸す・私が けれど まだ お前・返す も (否定) する
 「お前に金を貸したがまだ返しもしない」
3. オピッタ クシクヌカ ワ クホシッパレ クスネ。
 Opitta ku=siknuka wa ku=hosippare kusune.
 全員 私が生かす て 私が・帰す つもり
 「彼ら全員を生きて帰すから」

母音で単数形、パ -pa で複数形がつけられる動詞

動詞のなかには動詞の語幹の後ろに母音をつけて単数形をつくるものがあります。そのような動詞では、語幹の後ろにパ -pa をつけて複数形がつけられます。

このタイプの動詞は比較的多数みられます。自動詞の例を以下にあげます。

ホプニ hopun-i (単数) / ホブンパ hopun-pa (複数) 「～が起きる」

ホシピ hosip-i (単数) / ホシッパ hosip-pa (複数) 「～が帰る」

ホユプ hoyup-u (単数) / ホユッパ hoyup-pa (複数) 「～が走る」

他動詞の例を以下にあげます。なお、他動詞の複数形は、目的語の数を表すのが一般的です。

ト°イェ tuy-e (単数) / ト°イパ tuy-pa (複数) 「～が～を切る」

スイェ suy-e (単数) / スイパ suy-pa (複数) 「～が～を揺らす」

レウエ rew-e (単数) / レウパ rew-pa (複数) 「～が～を曲げる」

ペレ per-e (単数) / ペレパ per-pa (複数) 「～が～を割る」

ステップ22 自動詞・他動詞・複他動詞

(例文)

1. エルム キラ。
Erum kira.
ネズミ 逃げる
「ネズミが逃げる」

2. ホロケウ ユク ライケ。
Horkew yuk rayke.
オオカミ シカ 殺す
「オオカミがシカを殺した」

3. アヌタリ ウエイシサム ウタヲ アネヲ コレ。
Anutari wen sisam utar anep kore.
同族 貧乏である 和人 達 食料 与える
「アイヌは貧乏な和人に食料をやった」

自動詞（1項動詞）

これまでのステップでも、自動詞や他動詞という用語が出てきました。これらの動詞の違いは、いくつの名詞と結びつくかという点にあります。動詞が名詞と結びつくことを、「動詞が名詞を取る」と表現することもあります。自動詞は1つの名詞と結びつき、この名詞が主語（動作の主体となるもの）になります。

エルム キラ。erum kira. 「ネズミが逃げる」

この例のように、自動詞の前には空の箱が1つあって「□が入る」のような格好になっているとイメージしてください。この箱には主語にあたる名詞が入ります。このように、自動詞は1つの名詞と結びつくことから、「1項動詞」と呼ばれることもあります。

他動詞（2項動詞）

他動詞は主語の他にもう1つの名詞と結びつき、これが目的語（動作の対象となるもの）になります。

ホロケウ ユク ライケ。horkew yuk rayke. 「オオカミがシカを殺す」

この例のように、他動詞の前には、主語の箱に加えてもうひとつ目的語の箱があるとイメージしてください。他動詞は2つの名詞と結びつくことから、「2項動詞」と呼ばれることもあります。アイヌ語では、自動詞と他動詞の区別が厳密におこなわれます。

日本語では、主語に「～は、～が」を、目的語は「～を、～に」といった格助詞が用いられますが、アイヌ語では用いられません。名詞は主語・目的語の順に並べられるのが一般的ですが、目的語・主語の順に並べられることもあります。

複他動詞（3項動詞）

他動詞のなかには、目的語にあたる名詞を2つ取る動詞があります。これを複他動詞（3項動詞）と呼びます。

アナタリ ウエイシサムウタラ アネブ コレ anutari wen sisam utar anep kore.
「アイヌが貧乏な和人達に食料をやる」

ステップ23 「たくさん」「少し」 副詞

(例文)

1. ニ レヘ ポロンノ アン。
Ni rehe poronno an.
木 名前 たくさん ある
「木の名前はたくさんある」
2. ルヤンペ ポンノ アシ。
Ruyampe ponno as.
雨 少し 降る
「雨が少し降る」
3. タアン ニ テイネ クス ソモ ウファイ ナ。
Taan ni teyne kusu somo uhuy na.
その 木 濡れる ので (否定) 燃える よ
「その木は濡れているので燃えないよ」
4. マキリ アニ ニ クヌイエ。
Makiri ani ni ku=nuye.
小刀 で 木 彫る
「小刀で私は木に彫刻する」

副詞のはたらき

このステップでは主として副詞を使った表現を取り上げます。副詞とは日本語の「たくさんある」「とてもはやい」などのように、動詞の前に置かれて動作・状態のあり方を説明する言葉です。

- (1) 副詞のなかには、動詞にノ **-no** という形をつけて規則的につくられるものがあります（例：**ポン pon**「～が小さい」→**ポンノ ponno**「少し」、**ピリカ pirka**「～が良い」→**ピリカノ**「良く」、**トイマ tuyma**「～が遠い」→**トイマノ tuymano**「遠く」）。
- (2) 「…しない」という否定の表現には**ソモ somo**という副詞が、「けっして…するな」という禁止の表現には**エチキ eciki**という副詞が用いられます（ステップ11を参照）。
- (3) 副詞のなかには、名詞の後に置かれて「～に、～で」のような格助詞にあたる役割をもつものがあります（例文4）。このような副詞は後置副詞と呼ばれます。

ステップ24 位置関係の表現1

(例文)

1. ネ メノコ エトクタ ホロケウ サン。
 Ne menoko etok ta horkew san.
 その 女 の前 に オオカミ 下りる
 「その女の行く手をオオカミが先導して下りた」

2. オマヌワ イサム オカケタ ソンノ クニシヌ。
 Oman wa isam okake ta sonno ku=nisnu.
 行く て いない の後 に とても 私が・寂しい
 「彼が去った後、私はとても寂しかった」

3. クマ コッチャエネ シネ オッカヨ エク。
 Kuma kotcake ene sine okkayo ek.
 干し台 の前 へ 一人の 男 来る
 「干し台の前に一人の男が来た」

4. チセ オシマケタ シネ スンク アシ カナン。
 Cise osmake ta sine sunku as kane an.
 家 の後ろ に 一本の エゾマツ 立つ ながら ある
 「家の裏に一本のエゾマツが立っている」

5. ケナシ ソ オロペカ アプカサシ。
 Kenas so or peka apkas=as.
 木原 一面 の所 を 歩く・私達が
 「木原を歩き回る」

位置関係を表す名詞

「前」「後」のような位置関係を表す名詞を位置名詞といいます。位置名詞には短形と長形との区別と呼ばれる二種類の形があります。以下に例をあげます。

エトク etok (短形) / **エトコ etoko** (長形) 「～の前」

オシマク osmak (短形) / **オシマケ osmake** (長形) 「～の後」

オロ or (短形) / **オロ oro** (長形) 「～の中、所」

一般に、短形は基準となる名詞との関係が密接な場合に使用されます。また、長形は基準となる名詞が省略されている場合などに使用されます。ただし、短形と長形の区別についてはまだ十分に明らかではない面もあります。

単語を覚えよう3 ～動作を表す言葉1～

- | | | | |
|-----|------|--------|-----------|
| 1. | シノッ | sinot | 「～が遊ぶ」 |
| 2. | マ | ma | 「～が泳ぐ」 |
| 3. | アツカシ | apkas | 「～が歩く」 |
| 4. | ホユプ | hoyupu | 「～が走る」 |
| 5. | モコロ | mokor | 「～が寝る」 |
| 6. | モシ | mos | 「～が目を覚ます」 |
| 7. | マカ | maka | 「～が開く」 |
| 8. | アシ | asi | 「～が閉まる」 |
| 9. | アフン | ahun | 「～が入る」 |
| 10. | アシン | asin | 「～が出る」 |

さまざまなイロセ 3

静内・十勝地方

◇新年の祈り

アシリパノミ アンキ シリ ネ ナ。

asirpanomi an=ki siri ne na.

新年の祈りをいたしますよ

ウロクテ カムイ ウタリ

urokte kamuy utari

いらっしゃいます神々よ、

アムキリワ ウンコレ キヤン！

amkir wa un=kore ki yan!

ご承知ください。

クコロ ウタリ ピリカ モンライケ キクニネ、

ku=kor utari pirka monrayke ki kunine,

私の親族がつつがなく働けますように、

セレマク ウシワ ウンコレ キヤン！

sermak us wa un=kore ki yan!

お見守りください。

(語り手:葛野辰次郎さん)

☆この言葉を掲載するにあたり『平成 11 年度アイヌ語ラジオ講座テキスト』vol.4 を参照しました。

◇芽室太 船を下ろす時の歌

アリ アン ペシタ メナスン テレケ

ari an pe sta menas un terke

これこそまさに 東の踊り

メナスン リムセ オカイ ペネネ

menas un rimse okay pe ne ne.

東の舞 まことだぞ

アンホーホイ ハホイ！

an ho hoy ha hoy!

☆この歌を収録するにあたり、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会（「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第 8 号 下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009 年）を参照しました。

ステップ25 位置関係の表現 2

(例文)

1. エンコパケネ パテク スプヤ エク。
 En=kopak ene patek supuya ek.
 私の・の方向 へ ばかり 煙 来る
 「私の方にばかり煙が来る」

2. ウンテキサマタ カムイ ホラルパ ワ ウネブンキネ。
 Un=tekisam ta kamuy horarpa wa un=epunkine.
 私達の・のすぐそば に 神 鎮まる て 私達を・守る
 「私達のすぐ傍らに神がお鎮まりになって私達を御守護くださる」

3. イエトコタ エクロク ニシ アン。
 I=etoko ta ekurok nis an.
 私達の・の前に に 真黒い 雲 ある
 「私たちの行く手に真っ黒い雲がある」

4. エオカタ ネン エト°ラ ヤ?
 E=oka ta nen e=tura ya?
 お前の・の後 に 誰 お前が・連れる 隠れる
 「お前後ろに誰を連れて歩いてるんだ？」

5. エシサマケネ インカラ ワ エンコレ ヤン。
 Es=samake ene inkar wa en=kore yan.
 あなた達の・のそば へ 見る て 私に・くれる 下さい
 「皆さんの傍らをご覧ください」

位置名詞の人称

このステップでは、人称接辞と位置名詞の組み合わせについて説明します。位置名詞の基準点を表す場合には、目的格人称接辞が用いられます。

- (1)「私の前」などと表現する場合には、位置名詞の前に**エン en**＝「私を（に）」をつけます（例1）。
- (2)聞き手を含めずに「私たちの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**ウン un**＝「私たちを（に）」をつけます。また、聞き手を含めて「私たちの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**イ i**＝「私たちを（に）」をつけます（例文2,3）。
- (3)「お前の前」などと表現する場合には、他動詞の前に**エ e**＝「お前を（に）」をつけます（例文4）。
- (4)「お前達の前」「あなたの前」「あなたたちの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**エシ es**＝をつけます（例文5）。

ステップ26 場所の表現

(例文)

1. アイヌ オッタ カ カムイ オッタ カ オタスト°ンクル
 Aynu or ta ka kamuy or ta ka Otasutunkur
 人 の所 に も 神 の所 に も オタスト°ンクル

パクノ カムイクシコラチアンクル イサム。
 pakno kamuykuskoraciankur isam.
 ほど 優れた人 いない

「人の国でも神の国でもオタスト°ンクルほど優れた人はいない」

2. ナイ オッタ ヤチポチ アン。
 Nay or ta yacipoci an.
 沢 の中 に 泥濘 ある

「沢の中がどろどろになっている」

3. クマツネポ タスム ワクス サマ クウン。
 Ku=matnepo tasum wakusu sama ku=un.
 私の。娘 重病にかかる たので そのそば 私が・に付く

「私の娘が重い病にかかって私は看病した」

4. ペウレプ ト°ッ アン コロカ ナー ポンマ ヌマ
 Pewrep tup an korka na pon wa numa
 仔グマ 二匹 いる けれど まだ 小さい て 毛

カ ポンノ ウシ カネ オカイ。
 ka ponno us kane okay.
 も 少し 生える ながら いる

「仔グマが二匹いたけれどまだ小さくて毛も少ししか生えていなかった」

場所の表現

アイヌ語の格助詞は、位置名詞の後につけられます。したがって、「人」や「神」、「川」のような普通名詞には、格助詞を直接つけることはできません。そこで、普通名詞に格助詞をつける場合には、位置名詞を用いて、普通名詞＋位置名詞＋格助詞のように表現します（例文1,2）。

場所を目的語にする動詞

動詞の中には「前」、「後」のような場所を表す名詞を目的語としてとる動詞があります。その多くは対象が存在することを表す動詞です。例としては、**ウン un**「～が～にある、いる」、**ウシ us**「～が～に付く」、**オマ oma**「～が～に入る」、**オ o**「～が～に位置する、入る」などの動詞があります。

ステップ27 所有の表現 1

(例文)

1. クテケ アンパ ワ チセ オッケネ エナフンケ。
 Ku=teke ampa wa cise oske ene en=ahunke.
 私の・手 持つ て 家 の中 へ 私を・入れる
 「彼女達は私の手を取って家の中へ入れた」

2. アヨー、 クテケへ アント°イパ ポコン アラカ。
 Ayo, ku=tekehe an=tuypa pokon arka.
 あ痛 私の・手 人が・切る ように 痛い
 「あー痛い、手が切られたみたいに痛い」

3. クサパ ウェン クス クエランペテク。
 Ku=sapa wen kusu ku=erampetek.
 私の・頭 悪い から 分からない
 「私は頭が悪いから分かりません」

4. クサパハ アラカ。
 Ku=sapaha arka.
 私の・頭 痛い
 「頭が痛い」

名詞の所属形と概念形

アイヌ語の名詞には概念形と所属形の二種類があります。概念形は一般的・抽象的な意味で用いられ、所属形は「AのB」という所有の表現に用いられます。

(1) 所有の表現は「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」のように言葉を並べます。

(2) 母音で終わる名詞語幹の場合、所属形は以下の方法で作られます。

概念形

概念形＋hV (V: 母音)

(3) 子音で終わる名詞語幹の場合、所属形は以下の方法で作られます。

概念形＋所属形接尾辞

概念形＋所属形接尾辞＋hV

(4) 所属形接尾辞はイiであることが多いですが、アa, ウu, エe, オoのこともあります。また、ウw, イyで終わる語幹の場合、所属形接尾辞はエeとなります(-hVのVは、最後の母音と同じ母音が現れます)。

所有の表現

「A の B」という所有の表現には、以下の二通りのパターンがあります。

- (1)「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」を用いた所有の表現は、身体部位などのように、相手に譲り渡すことが不可能な場合に用いられます（例文1,2）。
- (2)同じ所有の表現であっても、飼育動物など、相手に譲渡することが可能な場合には、**コロ kor**「～が～を持つ」という動詞を用いて、「人称接辞＋**kor**＋名詞」または「名詞＋**kor**＋名詞（概念形）」と表現します（例文3,4）。

ステップ29 親族関係の表現

(例文)

1. アノナハ カ アヌヌフ カ トーテクノ オカイ ルウェ？
 An=onaha ka an=unuhu ka totekno okay ruwe?
 あなたの・父上 も あなたの・母上 も 元気で いる 事実
 「あなたのお父上も母上も元気でしょうか？」

2. クアキヒ ト°ラ キムタ パイエアシ。
 Ku=akihi tura kim ta paye=as.
 私の・弟 一緒に 山 に 行く…私達が
 「私は弟と山に行った」

3. クコロ エカシ ソンノ チパパ。
 Ku=kor ekasi sonno cipapa.
 私が・持つ お爺さん とても 達者である
 「私のお爺さんはとても体の丈夫な人でした」

4. フチー、 アン ルウェー？
 Huci, an ruwe?
 お婆さん いる 事実
 「(家を訪ねて) 婆ちゃん、いる？」

親族関係の表現

親族関係の表現には、「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」が用いられる場合があります（例文1, 2）。一方、「人称接辞＋kor＋名詞」または「名詞＋kor＋名詞」が用いられる場合もあります（例文3）。

親族関係の表現には方言差も大きく、どのように使えばいいのか不明な場合もあります。

呼びかけの表現

相手に呼びかける場合は、人称接辞が用いられない傾向がみられます（例文4）が、詳細は不明です。

ステップ30 形式名詞

(例文)

1. ホッキアンヌマン クエク ルウェ ネ。
Hoskiannuman ku=ek ruwe ne.
おとつ 私が・来る 事実 である
「私はおとつ来たのだ」
2. イメル アッ シラン。
Imeru at sir an.
稲光 たつ 様子 ある
「雷が光る」
3. ネンカ メノコ ウボボ ハウエ (アウエ) クヌ。
Nen ka menoko upopo hawe ku=nu.
誰 も 女 歌う 声 私が・聞く
「誰か女が歌う声を私は聞いた」
4. ヤンマッカ ピリカ ウマナー。
Yammakka pirka hum an na.
清水 美味しい 感覚 ある よ
「冷たい水は美味しいなあ」

形式名詞の用法

例文の中のル ru, シリ sir, ハウ haw, フム hum は、いずれも日本語の「の」「こと」などにあたる意味をあらわす言葉です。これらの言葉は形式名詞（または名詞化辞）とよばれます。

- (1) ルウエ ruwe あるいはル ru は話し手が確信している事柄に用いられます（例文1）。
- (2) シリ siri あるいはシリ sir は視覚によって認識された事柄に用いられます（例文2）。
- (3) ハウエ haw あるいはハウ haw は発言などによって認識された事柄に用いられます（例文3）。
- (4) フミ humi あるいは hum フムは物音や身体感覚などによって認識された事柄に用いられます（例文4）。
- (5) 例えばルウエ ruwe を使うかル ru を使うかは、前者は空知系、後者は上川、十勝系など家系によっておおまかに異なるのですが、言い回しによって何れの家系であっても他の言い方もするので、詳細は専門家に聞いて下さい。

形式名詞と動詞の組み合わせ

形式名詞はネ ne 「～が～である」という動詞と組み合わせられて、日本語の「のだ」「ことだ」にあたる表現をつくります（例文1）。一方、形式名詞とアン an（複数形オカイ okay）「～がある、いる」を組み合わせると、感嘆の表現になります（例文2, 4）。

ステップ31 連体修飾表現

(例文)

- タン メノコ アナクネ クアムキリ メノコ ネ。
 Tan menoko anakne ku=amkir menoko ne.
 この 女 というもの 私が・見知る 女 である
 「この女の人は私の知っている女の人だ」
- ソイタアングル ピリカノ ウナナテ ヤ。
 Soy ta an kur pirkano unapte ya.
 外 に いる 人 丁寧に 招き入れる なさい
 「外にいる人を丁寧に迎え入れなさい」
- トアン チカフ エシヌカラ アムキリ ルウェ？
 Toan cikap es=nukar amkir ruwe?
 あの 鳥 あなたが・見る したことがある 事実
 「あの鳥を見たことがありますか？」
- シサム セコランベ アラキ ワ タン コタン
 Sisam sekor an pe arki wa tan kotan
 和人 と ある もの 来る て この 村
 オッタ アンベ オビッタ アネイッカ。
 or ta an pe opitta an=eikka.
 の中 に ある も みんな 人が・盗む
 「和人というものが来てこの村にあるものみんな奪ってしまった」
- タン エカッチ アナクネ コロ ハンベ ネノ アネカッチ ネ。
 Tan ekatci anakne kor hampe neno an ekatci ne.
 この 子供 というもの 持つ 父 似て いる 子供 である
 「この子は父親に似た子だ」

連体修飾表現

ある単語や句が名詞を修飾する構造を連体修飾節といいます。

- (1) アイヌ語の連体修飾節は、日本語と同じように、修飾を受ける名詞の前に置かれます。
- (2) 修飾を受ける名詞には、本来の文の主語に相当するもの（例文1, 2）、目的語に相当するもの（例文3, 4）、所有者に相当するもの（例文5）などの種類があります。

ステップ32 「この」「その」「あの」連体詞

(例文)

1. レ メノコ エク コロ アン。
 Re menoko ek kor an.
 三人の 女 来る て いる
 「三人の女が来つつある」

2. タン ルル ソンノ ルンヌ。
 Tan rur sonno runnu.
 この お汁 とても しょっぱい
 「このお汁はとてもしょっぱい」

3. タアン チサカンケフ エコレアン ナ。
 Taan cisakankep e=kore=an na.
 その 煮干し肉 お前に・与える・私が よ
 「その煮干し肉をお前にやるよ」

4. ネア チェフ アンマ ワ アネ。
 Nea cep an=ma wa an=e.
 その 魚 私達が・焼く て 私達が・食べる
 「その魚を私達は焼いて食べる」

5. ヌマン ネロク ニシパ ウタラ アラキ。
 Numan nerok nispa utar arki.
 昨日 その 金持ち 達 来る
 「昨日その旦那がたが来た」

連体詞を用いた表現

連体詞は日本語の「この、その」や「2つの」のように、名詞の前に置かれて位置や数などの情報を付け加える言葉です。連体詞には数を表すもの（「1つの」「2つの」）や空間を指示するもの（「この」「あの」）、前に出てきた話題を指示するもの（「その」）などがあります。

- (1) 数を表す連体詞には、**シネ sine** 「1つの、1人の」、**ト° tu** 「2つの、2人の」、**レ re** 「3つの、3人の」などがあります（例文1）。詳しくは初級ステップ23を参照してください。
- (2) 空間を指示する連体詞には、**タン tan**（複数形は**タノカイ tanokay**）「この（自分から近い位置にあるもの）」**タアン taan**（複数形は**トカイ tokay**）「あの（自分から遠い位置にあるもの）」などがあります（例文2, 3）。
- (3) 前に出てきた話題を指示する連体詞には、**ネ ne** や**ネア nea**（複数形は**ネロク nerok**）、**ネアン nean**（複数形は**ネオカイ neokay**）「その」などがあります（例文4, 5）。

単語を覚えよう4 ～動作を表す言葉2～

- | | | | |
|-----|------|--------|-----------|
| 1. | コロ | kor | 「～が～を持つ」 |
| 2. | ヌカラ | nukar | 「～が～を見る」 |
| 3. | ヌ | nu | 「～が～を聞く」 |
| 4. | エ | e | 「～が～を食べる」 |
| 5. | ク | ku | 「～が～を飲む」 |
| 6. | ミ | mi | 「～が～を着る」 |
| 7. | マカ | maka | 「～が～を開ける」 |
| 8. | セシケ | seske | 「～が～を閉める」 |
| 9. | アフンケ | ahunke | 「～が～を入れる」 |
| 10. | サンケ | sanke | 「～が～を出す」 |

さまざまなイポロセ4

◇人称接辞の歌（「ドレミの歌」の節で） 沙流・千歳方言で作りました。

クは私の ku= エはあなたの e= eci（エチ）=あなたたち
 ci=（チ）はてまえども =as（アシ）は自動詞に a= は一般に
 =an（アン）は敬称も en=（エン）un=（ウン）e=（エ）eci=（エチ）i=（イ）

（作成：北原次郎太）

ク	ku=	1 人称単数主格	動詞について「私は、私が」 名詞について「私の」
エ	e=	2 人称単数主格	動詞について「君は、君が」名詞について「君たちの」
エチ	eci=	2 人称複数主格	動詞について「君たちは、君たちが」 名詞について「君たちの」
チ	ci=	除外的 1 人称複数主格	「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」名詞について「私たちの」
アシ	=as	除外的 1 人称複数主格	自動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」
ア	a=	不定人称主格	不定人称主格 他動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」 「(敬称表現の際に) あなたは、あなたが」名詞について「(相手を含む) 私たちの」
アン	=an	不定人称主格	自動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」
エン	en=	1 人称単数目的格	
ウン	un=	1 人称複数目的格	他動詞について「私に、私を」他動詞について「私たちに、私たちを」他動詞について「君に、君を」他動詞について「君たちに、君たちを」不定人称
エ	e=	2 人称単数目的格	
エチ	eci=	2 人称複数目的格	
イ	i=	不定人称目的格	目的格 他動詞について 「(相手を含む) 私たちに、私たちを」 「人に、人を」「あなたに、あなたを」

ステップ33 「～へ」「～から」格助詞

(例文)

1. サッポロ エネ パイエアシ。
 Sapporo ene paye=as.
 札幌 へ 行く・私達が
 「私達は札幌へ行った」
2. クコッチセ エコタ アラキ ヤン。
 Ku=kor cise ekota arki yan.
 私が・持つ 家 へ 来る 下さい
 「私の家に来てくださいね」
3. シンバヤ オロワ ホシッパアシ (オシッパアシ)。
 Simpaya or wa hoippa=as.
 芝居 の所 から 戻る・私達が
 「私達は芝居から帰って来た」
4. ペツ ト°ラシ パイエアシ。
 Pet turasi paye=as.
 川 に浴って上流に 行く・私達が
 「私達が川浴いに上流に行った」
5. ペテソロ サパシ。
 Pet esoro sap=as.
 川 に浴って下流に 下る・私達が
 「私達は川に浴って下流に行った」

格助詞を用いた表現

日本語の「て、に、を、は」のように、名詞の後に置かれてその名詞の文法的な役割を示す言葉を格助詞（後置詞）といいます。主な格助詞を以下にあげます（ステップ23で説明した後置副詞にあたる形も含めてあります）。

タ	ta	～に、～で（場所・到着点）
エネ	ene	～へ（方向）オレネ or ene は基本に使わない
ペカ	peka	～で、～を（広い場所）
ワ	wa	～から（起点）
ネ	ne	～として、～に

なお、格助詞に相当する役割をもつ言葉として、後置副詞（ステップ23参照）があります。主な後置副詞を以下にあげます。

エコタ	ekota	～へ（方向）オレネ or ene の代わりに使われる
ト°ラシ	turasi	～に沿って上流へ
エソロ	esoro	～に沿って下へ
オシ	osi	～の後から
ト°ラ	tura	～と共に
アリ	ari	～で、～を用いて（道具・手段）
アニ	ani	～で、～を用いて

ステップ34 「～も」「～だけ」 副助詞

(例文)

1. エクロックル カ クヌカラ カ エラムシカレ。
 Ekurokkur ka ku=nukar ka eramuskare.
 黒人 も 私が・見る も した事がない
 「黒人も見た事もなかった」

2. キラ ポカ クキ エアイカプ。
 Kira poka ku=ki eaykap.
 逃げる事すら 私が・する できない
 「逃げる事すらできなかつた。」

3. トカプ エネ クンネ エネ チポアン アイネ シレパアン。
 Tokap ene kunne ene cipo=an ayne sirepa=an.
 昼 も 夜 も 船を漕ぐ・私達が あげく 着く・私達が
 「昼も夜も船を漕いで私達は着いた」

4. エアニ パテク エオシッコテアン。
 Eani patek e=osikkote=an.
 お前 だけ お前を・愛する・私が
 「お前が欲しい」

5. ネプ タ エコラー？
 Nep ta e=kor ya?
 何 こそ お前が・持つ か
 「一体何をお前持ってるの？」

副助詞を用いた表現

日本語の「～も」「～だけ」のように、他の単語の後に置かれて、その単語を取り立てる役割をもつ言葉を副助詞といいます。主な副助詞としては以下のようなものがあります。

アナク（ネ）	anak(ne)	～は（主題）
エネ	ene	～でも（例示）
カ	ka	～も（追加）
パテク	patek	～ばかり（限定）
パク（ノ）	pak(no)	～まで（限度）
ポカ	poka	～だけでも（限定）
タ	ta	～こそ（強調）

ステップ35 「～した」「これから…する」助動詞

(例文)

1. シリピリカ ア コロカ タネ ルヤンペ アシ シラン。
 Sirpirka a korka tane ruyampe as sir an.
 天気が良い た けれど 今 雨 降る 様子 ある
 「晴れてたが、今は雨が降ってる」
2. ウパシ ポロ ワ ニテッ カイ アワン。
 Upas poro wa nitek kay awan.
 雪 大きい て 木の枝 折れる のだった
 「雪がたくさん積って、木の枝が折れたのだ」
3. エシペ カスイ シリキ アナー。
 Es=ipe kasuy sirki an na.
 お前達が・食事する すぎる 様子 ある よ
 「お前達食べ過ぎみたいだな」
4. チコラ モシリ チヤイコホシピレ ルスイ。
 Ci=kor a mosir ci=yaykohosipire rusuy.
 私達が・持つ た 国 私達は取り戻す したい
 「私達の国を取り戻したい」
5. タント ノンカラ ソモ キ クニ。
 Tanto nonkar somo ki kuni.
 今日 見回る (否定) する よう
 「今日は見回るな」
6. エイペ ニサ？
 E=ipe nisa?
 お前が・食事する したばかり
 「飯食ったか？ (昔の挨拶言葉)」

助動詞を用いた表現

「…したい」「…できる」のように、動詞の後におかれて、時間、推量、意志、能力などの意味を表す言葉を助動詞といいます。主な助動詞としては、以下のようなものがあります。

ア	a	…した（完了）
ロク	rok	…した（完了・複数形）
アワン	awan	…したのだった（事実の確認）
ニサ	nisa	…したばかりだ
オケレ	okere	…し終える
カスイ	kasuy	～しすぎる
ナンコロ	nankor	…するだろう（推量）
ルスイ	rusuy	…したい（願望）
エアシカイ	easkay	…できる
エアイカフ	eaykap	…できない
コパン	kopan	…するのを嫌がる
クニ	kuni	…するべきである

なお、動詞と「…した」を表すア a を繰り返すことで「何度もする」「…し続ける」という意味を表すことができます。

カムイノミアナ		カムイノミアナ	
kamuynomi=an	a	kamuynomi=an	a...
神を祭る・私たちが	た	神を祭る・私たちが	た
「私たちは何度も神を祭って…」			

ステップ36 「～して」「～しながら」 接続助詞 1

(例文)

- クコットット チナ ノシキタ ア ワ ワッカケ。
 Ku=kor totto cip noski ta a wa wakkake.
 私が・持つ 日 船 の真中 に 座る て 塗りぬめる
 「私の母は船の真中に座って塗りぬめた」
- ソモセタクノ シラン テク クコロ ハンベ エペレ オロワ アンライケ。
 Somosetakno siran tek ku=kor hampe eper or wa an=rayke.
 しばらく 経つ て 私が持つ 父 クマ の所 て 何者か・殺す
 「しばらくして私の父がクマに殺されました」
- ネ メノコ ウェン パロコロ パテク キ アイネ アンコバン。
 Ne menoko wen parokor patek ki ayne an=kopan.
 その 女 悪く 言い方をする だけ する あげく 何者か・～を嫌がる
 「その女は口が悪くて嫌われた」
- チシ トラ イタク カネ アン。
 Cis tura itak kane an.
 泣く事 と一緒に 話す ながら いる
 「彼女は泣きながら話していた」
- ネ フチ イタク コラン。
 Ne huci itak kor an.
 その お婆さん 話す ながら いる
 「そのお婆さんは話していた」

接続助詞を用いた表現 1

接続助詞とは、日本語の「…しながら」「…して」のように、前の文と後の文をつなぐ働きをもつ助詞です。接続助詞には前の文と後の文との時間的な関係（「～しながら…する」など）を表すものや、論理的な関係（「…したので…する」など）を表すものなどがあります。このステップでは、主として時間的な関係を表す接続助詞について取り上げます。

- (1) 時間的な関係を表す場合、前の文と後の文が前後関係（「…して…する」）にあるのか、それとも同時的な関係（「…しながら…する」）にあるのかによって表現が区別されます。
- (2) 「…して…する」のような時間的な前後関係を表す場合には、**ワ wa** 「…して」や**テク tek** 「…して」などが使われます。また、「…し続けてその結果」のような意味を表す場合には、**アイネ ayne** 「…して」が用いられます。
- (3) 「…しながら…する」のような同時的な関係を表す場合は、**カネ kane** や**コロ kor** 「…しながら」が用いられます。どちらを使うかは家系によって微妙に違います。

ステップ37 「～なので」「…すると」 接続助詞 2

(例文)

1. シサム イライケ クス リウカテッ アンコシナ。 レクット°イポキ
 Sisam irayke kusu riwkatek an=kosina. Rekuttuyepoki
 和人 殺人する ので 橋の欄干 人が・縛る その首の下

ノコ アナヌ ワ リウカ クシクル アッスイ
 noko an=anu wa riwka kus kur assuy
 鋸 人が・置く て 橋 渡る 人 一回

ネ ノコ エタイェ コロ エアシ リウカ カシ クシ。
 ne noko etaye kor eas riwka kasi kus.
 その 鋸 引く と はじめて 橋 の上 渡る

「和人は人殺しをしたので橋の欄干に縛りつけられた。その首の下に鋸が置かれ橋を渡る人がその鋸を一回引いて初めて橋を渡れた (明治の旭川での事実)」

2. テエタ アイヌ ウタラ ウイマム クス レパ。
 Teeta aynu utar uymam kusu repa.
 昔 アイヌ 達 交易する ために 航海する

「昔アイヌ達は交易するため航海に出た」

3. クインカラワ ソイタ シロヌマン。
 Ku=inkar awa soy ta sironuman.
 私が・見る と 外 に 日が暮れる

「私が見ると外は日が暮れていた」

4. 「エタク」 セコロ クハウキ チキ エヤシ テレケアン。
 “Etak” sekor ku=hawki ciki eyasi terke=an.
 それ と 私が・言う たら 岸に 跳ぶ・私達が

「『それ』とわしが言ったら岸に跳べ」

5. ニナシケカ ワッカタシケカ ウンコヤイライケ カ ソモ キ。
 Nina=as hikeka wakkata=as hikeka un=koyayrayke ka somo ki.
 薪とりする ・私達が て も 水汲みする ・私達が て も 私達に・感謝する も (否定) する

「私達が薪とりしても水汲みしても彼らは感謝もしない」

接続助詞を用いた表現 2

このステップでは、主に「…するので（原因・理由）」、「…するために（目的）」、「…すると（条件）」、「…しても（譲歩）」、「…したところが（逆接）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

- (1)原因・理由の表現には**クス kusu**「…するので」という接続助詞が用いられます。目的の表現には**クニネ kunine**「…するために」のほか、**クス kusu**「…するために」などが用いられます（例文1, 2）。
- (2)条件の表現には**コロ kor**、**ヒケ hike**、**アワ awa チキ ciki**「…したら、…すると」などが用いられます（例文1, 34）。
- (3)譲歩の表現には**ヤッカ yakka**「…しても」、**ヒケカ hikeka**「…するのに」などが用いられます。また、逆接の表現には**コロカ korka**「…するけれども」が用いられます（例文5）。

ステップ38 「…するように」 接続助詞3

(例文)

- クライ コトム フマン。
 Ku=ray kotom hum an.
 私が・死ぬ ように 感覚 ある
 「私は死にそうだ」
- タネ クトーテック コトム クイペノ。
 Tane ku=totek kotom ku=ipeno.
 今 私が・健康になる ように 私が・充分食べる
 「もう健康になったようで食がすすむ」
- ポンノ クモコロ ポコン クヤイヌ。
 Ponno ku=mokor pokon ku=yaynu.
 少し 私が・眠る ように 私が・思う
 「少し眠ったような気がした」
- クエラマン コロカ クエランペテック ポコン クアン。
 Ku=eraman koka ku=erampetek pokon ku=an.
 私が・知っている けれど 私が・知らない みたいに 私が・いる
 「私は知っているのに知らぬふりをしている」
- エチッキ チシ ノ イペ ヤー。
 Ecikki cis no ipe ya.
 (禁止) 泣く て 食事する なさい
 「泣かずに食事しなさい」

接続助詞を用いた表現3

このステップでは、「…するように（推定）」、「…するみたいに（比況）」、「…しないで（否定）」、「…する様子で（状態）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

- (1) 推定の表現にはコトム kotom 「…するように」などが用いられます(例文1, 2)。
- (2) 比況の表現にはポコン pokon 「…するかのよう、…するみたいに」が用いられます(例文34)。
- (3) 否定や禁止、状態の表現にはノ no 「…して」が用いられます(例文5)。

ステップ39 接続助詞と動詞を組み合わせた表現 1

(例文)

1. シネ チセ アシ ワ アン。
 Sine cise as wa an.
 一つの 家 立つ て ある
 「一軒の家が建っている」

2. シネ チセ アシ カネ アン。
 Sine cise as kane an.
 一つの 家 立つ ながら ある
 「一軒の家が建っている」

3. ポン チプ トー オロペカ ホユプ(オユプ) コロ アン。
 Pon cip to or peka hoyupu kor an.
 小さな 船 湖 ~のところで 走る て いる
 「小さな船が湖を走っていた」

4. ネ オッカヨ アシン イキ コロ チカフ アフン。
 Ne okkayo asin iki kor cikap ahun.
 おの 男 出る する と 鳥 入る
 「その男が出ようとすると鳥が入って来た」

5. タアン メノコ フシコ コトム アン。
 Taan menoko husko kotom an.
 その 女 古くなる、妊娠する ように いる
 「その女は妊娠してるようだ」

接続助詞と補助動詞を用いた表現 1

接続助詞（ステップ36参照）と、**アン an**（複数形**オカイ okay**）「～がある、いる」また**イキ iki**「～が…する」などの動詞（補助動詞）が組み合わせられ、「…している」「…しつつある」などの意味が表されることがあります。なお、これらの表現においては、補助動詞にも人称接辞がつけられます。

- (1) 動作や変化の進行を表す表現には、**コロ アン kor an**（複数形**コロ オカイ kor okay**）「…しつつある」、**カネ アン kane an**（複数形**カネ オカイ kane okay**）「…しつつある」などが用いられます（例文2,3）。
- (2) 動作や変化の結果の状態を表す表現としては**ワ アン wa an**（複数形**ワ オカイ wa okay**）「…している、…してある」、**カネ アン kane an**（複数形**カネ オカイ kane okay**）「…している、…してある」などが用いられます（例文1）。
- (3) 意図を表す表現としては**クス イキ kusu iki**「…しようとする」などが用いられます（例文4）。
- (4) 推量の表現の表現には**コトム アン kotom an**、比況の表現には**ポコン アン pokon an**「…するかのようだ」などが用いられます（例文5）。

ステップ40 接続助詞と動詞を組み合わせた表現2

(例文)

1. アペ ウク ワ インカラ ヤー。
 Ape uku wa inkar ya.
 火 吹く て みる なさい
 「火を吹いてみなさい」

4. タン トーペンペ エー ワ イヌー。
 Tan topempe e wa inu.
 この お菓子 食べる て みる
 「このお菓子食べて見ろ」

3. ウセウ クー ワ イヌ ヤン。
 Usew ku wa inu yan.
 白湯 飲む て みる なさい
 「お茶飲んでみなさい」

4. ラタシケナ オピッタ チエ ワ イサム。
 Rataskep opitta ci=e wa isam.
 御馳走 全て 私達が食べる て 無い
 「私達は御馳走をみんな食べてしまった」

5. チセ チカラ ワ オケレ。
 Cise ci=kar wa okere.
 家 私達で作る て 終わる
 「私達は家を建ててしまった」

6. エイエ チキ ヤイカタ キ ワ エンコレ ヤー。
 E=ye ciki yaykata ki wa en=kore ya.
 お前が言う なら 自分で する て 私に・くれる なさい
 「言うなら自分でやって下さい」

接続助詞と補助動詞を用いた表現 2

前のステップで取り上げた接続助詞と補助動詞の組み合わせには、他にも様々なものがあります。

- (1)「…してみる」という表現には、**ワ インカラ wa inkar**「…してみる」、**ワイヌ wa inu**「…してみる」が用いられます。「見てみる、作ってみる」などには**ワ インカラ wa inkar**を使い、そのほかの「触ってみる、聞いてみる、味わってみる」などには**ワイヌ wa inu**を使います（例文1,2,3）。
- (2)「…してしまう」という表現には**ワ オケレ wa okere**または**ワ イサム wa isam**が用いられます（例文4,5）。
- (3)「…してくれる」という表現には**ワ コレ wa kore**が用いられます（例文6）

単語を覚えよう5 ～程度を表す言葉～

- | | | | |
|-----|-------|-----------|--------------|
| 1. | アプンノ | apunno | 「静かに」 |
| 2. | ユアケノ | yupkeno | 「強く」 |
| 3. | ト°ナシノ | tunasno | 「急いで」 |
| 4. | ラッチノ | ratcino | 「ゆっくりと」 |
| 5. | ピリカノ | pirkano | 「きれいに」 |
| 6. | イヨッタ | iyotta | 「最も、一番」 |
| 7. | ニサプ | nisap | 「急に」 |
| 8. | シノ | sino | 「非常に」 |
| 9. | レンカイネ | renkayne | 「意志によって、勝手に」 |
| 10. | アリキキノ | arikikino | 「一生懸命に」 |

さまざまなイロセ5

十勝地方

◇芽室太のタッカラ「踏み舞」

タネアナッネ ラカ イサム オンネ ヲ クネ クス シンシ
tane anak raka isam onne p ku=ne kusu nnn

今や何の甲斐もない年寄りとなりましたので

シクア アイヌ ウタリ オッカイ シクア ウタラ
sikap aynu utari okkay sikap utar

若い者たち 若い男たち

シクア メノコ ウタラ エカッタラ コクシシノポ
sikap menoko utar ekattar kokusisno po

若い女たち 子供たちとともに

イワンケノポ ウオオンフウォ!
iwankeno po uoo nn huo!

達者で(暮らしすように)

クオンカミ ハウ エシタパン ナ。
ku=onkami haw estap an na.

私は拝礼するのです。

(語り手:高橋勝次郎さん)

☆語り手の高橋さんが、芽室太出身の小川エタイェクルというエカシのタッカラを思い出して演じたものです。高橋さんがふだん演じていたタッカラとは節が違いますが言葉運びは似ています。

☆この歌を収録するにあたり、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会(「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第8号 下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009年)を参照しました。

ステップ41 「～だよ」「～ですか」 終助詞

(例文)

- クアニ クウェン ナ。 エチキ イルシカ ヤン。
 Kuani ku=wen na. Eciki iruska yan.
 私 私が・悪い よ (禁止) 怒る 下さい
 「私が悪かったよ。怒らないで下さい」
- ピリカ ワ。 ピリカ ワ。 スンケサクノ クオマン ワ。
 Pirka wa. Pirka wa. Sunkesakno ku=oman wa.
 良い よ 良い よ きっと 私が・行く よ
 「はいはい。きっと行くからね」
- エシンキ チキ ホッケ アニ。
 E=sinki ciki hotke ani.
 あなたが・疲れる なら 横になる なさい
 「疲れているのなら横になりなさい」
- ウコイタカン ロク。
 Ukoitak=an rok.
 話し合う・私たちが しよう
 「会話をしましょう」
- エホニ ソモ アヲカ ヤ?
 E=honi somo arka ya?
 あなたの・腹 (否定) 痛い か
 「あなたのお腹は痛くないのか？」
- タンペ ヘ?
 Tampe he?
 これ か
 「これかい？」
- クヤイヌ ネノ エヤイヌ ルカ?
 Ku=yaynu neno e=yaynu ru ka?
 私が・思う ように お前が・思う 事実 か
 「結婚してくれ」

終助詞を用いた表現

文の最後におかれて、疑問や命令、確認などの意味を表す言葉を終助詞といいます。主な終助詞としては以下のようなものがあります。

ナ	na	…（する）ぞ（聞き手への促し）
ワ	wa	…（する）よ
アニ	ani	…しなさい（言い聞かせ・念押し）
ヤン	yan	…しなさい（複数・丁寧な命令）
ロ	ro	…しよう（勧誘）
ロク	rok	…しよう（勧誘）
ヤ	ya	～か（疑問）、…しなさい
ヘ	he	～か（疑問）
カ	ka	～か（疑問）

ステップ42 形式名詞による文末表現

(例文)

1. テエタ プリ エカシ プリ チエオリパッ クス ピリカ トノト
 Teeta puri ekasi puri ci=eoripak kusu pirka tonoto
 昔 プリ 父祖 プリ 私達が・尊ぶ ので 良い 酒

タナント オッタ カムイノミアシ シッタパン ナ。
 tananto or ta kamuynomi=as sir tap an na.

今日 の時 に 神祈りする。私達が 様子 こそ ある よ

「昔のプリ、父祖のプリを尊びますので良き酒を醸し、今日の日に
 神への祈りを我らしているのでございますよ」

※プリ puri 習慣、風習、やり方、しぐさ

多くの場合、「物の物たる所似」「本分」「心」などの意である。「アイヌ・プリ」と言えば「アイヌのアイヌたる所似」「アイヌ特有の生活習慣」「人間らしい心」などの意味になる。

2. トノ ウタラ ヌ ルスイペ ネ アウ ネ
 Tono utar nu rusuy pe ne aw ne
 和人 達 聞く したい もの である 声 である

クス クエアイカナ ナッカ クキ アウエ
 kusu ku=eaykap ne yakka ku=ki awe
 ので 私が・下手 である ても 私が・する 声

タパン ナ。

tap an na.

こそ た よ

「和人の方々が聞きたいと言うから、私は下手でも（ヤイサマを）
 やるのでございますよ」

形式名詞を用いた文末表現

形式名詞（ステップ30参照）は様々な動詞や副助詞、終助詞などとともに、文末表現をつくれます。

「形式名詞＋**タフ** tap ＋**アン** an（複数形**オカイ** okay）＋**ナ** na」という表現が用いられることがあります。

ステップ43 長文引用の表現

(例文)

1. カスシテ エカシ エネ イタキ。 「アンコロ イコロ オピッタ
 Kasuste ekasi ene itak hi. “An=kor ikor opitta
 カスシテ エカシ こう 言う 事 私が・持つ 宝物 全て

アシンベ ネ エシコレアン クス タン カムイ
 asimpe ne es=kore=an kusu tan kamuy
 賠償 に あなた達にあげる・私が ので この クマ

エンコレ ヤン」
 en=kore yan.”
 私に・くれる 下さい

セコロ イタク コロ ネ アイヌ ウタラ エーセ。
 sekor itak kor ne aynu utar ese.
 と 言う と その 男 達 答える

「カスシテ・エカシがこう言った。『私の宝物を賠償として全部あなたの方にあげるからこのクマを私に下さい』と言うとその男達は承諾した。」

長文の引用表現

誰かの言葉などを引用する表現には、様々なタイプがあります。ここでは長い文を引用する方法を見て見ましょう。例文のように本来 ク ku で表現される一人称単数が、**アン an=**、**=an** となるのが特徴です。

ステップ44 「～と」引用の表現

(例文)

1. 「エネアン ハワシ ネン エイソコロ アワン？」
 “Enean hawas nen eisokor haw an?”
 そんな 言う事 誰 信じる 声 ある

セコロ イタクパ。
 sekor itakpa.
 と 言う

「『そんな話誰が信じると言うんだ？』と彼らは言います」

2. 「ペッサムンクル チネ ナ。イカネイベカ チアヌンコパ ヤ」 セコロ
 “Petsamunkur ci=ne na. Ikaneypeka cianunkopa ya.” sekor
 川村の者 私達・である よ 決して～するな 他人扱いする なさい と

エカシ イタッコロ カムイフム カ ライコサヌ。
 ekasi itak kor kamuyhum ka raykosanu.
 お爺さん 言う と 雷 も 静まる

「『私達は川村の者ですよ。他人扱いなされるな』とお爺さんが言う
 うと雷も静まりました

3. クコットット ナアニ ライ ヤカイエ。
 Ku=kor totto naani ray yak a=ye.
 私が・持つ 母 もう 死ぬ と 人が・言う

「私の母は死にかけたそうです」

引用の表現

誰かの言葉などを引用する表現には、様々なタイプがあります。

- (1)相手の発言などをそのまま引用する場合には、セコロ *sekor* 「～と」が用いられます（例文1, 2）。
- (2)相手の発言を間接的に引用する場合には、ヤク *yak* 「～と」などが用いられます（例文3）。

中級アイヌ語 ―石狩川―

発行年月 2014年3月
発行 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
〒060-0001
北海道札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・75階
TEL (011) 271-4171 FAX (011) 271-4181
URL <http://www.frpac.or.jp> E-mail: ainu@frpac.or.jp
印刷 株式会社北海道機関紙印刷所



公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構